

Ⅲ 令和3年度教育事業等

1 令和3年度 国立磐梯青少年交流の家教育事業等実施一覧

令和4年3月8日現在

No.	事業名	事業目的	事業内容	期間	対象
(1) 次代を担う青少年の自立に向けた健全育成事業					
1	【モデル的事业 (特色あるプログラム事業)】 【モデル的事业 (実践研究事業)】 アクティブ・ジオ キャンプ	子ども達に基本的な生活習慣を身につけさせ、自己肯定感を高めるため家庭と連携し、「食育」と「運動習慣づくり」からのアプローチによって基本的な生活習慣の醸成を図る。また、冒険的な活動を通じて、仲間と協働して困難を乗り越えるための技術や態度を培い、達成感や成就感を味わうとともに、長期キャンプの魅力発信する。大学の研究者等と協働で実践研究を行う。また、体験活動の効果測定等を行い、その重要性の普及に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・元気な体をつくる食事とクッキング ・カヌー体験 ・サイクリング ・キャンプファイヤー ・磐梯山ジオパークを活用したフィールドワーク(爆裂火口壁・銅沼散策等) ・登山(磐梯山、安達太良山、猫魔ヶ岳、吾妻山等) ・水辺の活動(カヌー、シャワークライミング等) ・猪苗代湖一周チャレンジウォーク ・防災や減災に係る教育(講演) 	7/25(日)～8/7(土)	小学5年生～ 中学3年生と その保護者
2	【課題を抱える青少年の支援事業】 生活自立支援キャンプ	課題を抱える子供を対象に、体験活動を通じて、子供たちが基本的な生活習慣を身に付ける機会を提供する。また、その課題を自らの問題と捉え、身近なところから取り組み、課題解決につながる新たな価値観を生み出す機会も提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動の楽しさを感じるレクリエーションや野外遊びプログラム ・自立した生活を目指したプログラム ・協働することのよさを実感するプログラム ・基本的な生活習慣を身に付けるきっかけとなるプログラム ・自らの課題に気付くプログラム 	①6/26(土)～6/27(日) ②10/16(土)～10/17(日) ③11/27(土)～11/28(日)	連携施設 (いわき育英舎、ビーンズふくしま)
3	【全国高校生体験活動顕彰制度オリエンテーション合宿】 【防災・減災教育事業】 地域探究プログラム (学校・団体参加型)	オリエンテーション合宿を通して、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力等について学び、多様な人々と協働しながら地域・社会にある課題解決に向けた地域での実践活動を通して、郷土や自然に愛着をもち、新たな価値を創造する高校生を育成する。	①防災 ②防災 ③宿泊合宿(日帰り実施) ④磐梯山登山 ⑤防災 ⑥振り返り	①5/7(金) ②5/14(金) ③6/3(木)～6/4(金) ④6/11(金) ⑤6/18(金) ⑥6/25(金)	猪苗代高校 1年生
4	【全国高校生体験活動顕彰制度オリエンテーション合宿】 高校生ふるさと探究プロジェクト (個別参加型)		<ul style="list-style-type: none"> ・地域での実践 <ul style="list-style-type: none"> ・自然体験 ・自然・環境に係る活動 ・社会体験 ・ボランティア活動 ・職業体験 ・生活・文化体験 ・地域の伝統文化 等 ・プレゼンテーション 	①7/22(木)～7/24(土) ②8/21(土)～8/22(日) ③10/24(日)	福島県内の 高校生
5	【地域ぐるみ事業】 イングリッシュ キャンプ	将来的に国際社会で活躍しようとする人材育成につながることを目的に、地域の関係機関や地域在住の外国の方々との連携を図り、国際理解の視点から様々な国の言語や文化を体験させ、異文化理解や外国への興味・関心につながる活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な国の方をお呼びし、食を通じて日本と外国との良さや違いを理解する。 ・英会話や観光地の様子など、ガイドに必要な知識を身につけ、英語で案内できるよう準備する。 ・観光地を英語で案内する様子を動画撮影し、動画共有サイト等へアップし、発信する。 	①10/30(土)～10/31(日) ②2/19(土)～2/20(日)	小学4年生～ 小学6年生
6	【地域ぐるみ事業】 親子カヌー体験	子供とその保護者を対象に、カヌー体験等の活動を通して非日常を体験してもらい、自然体験活動の魅力発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ・カヌー体験 ・湖水浴 	10/2(土)～10/3(日)	子供と保護者
7	【地域ぐるみ事業】 ばんだいの自然体験プログラム	小学生を対象に、新しいことへ挑戦したり、自分の力で解決したりすることのできる自然を活用した体験活動を通して、達成感や成就感を味わわせるとともに、自然に親しむ態度を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史探訪(戊辰戦争や白虎隊の話・洞門くぐり) ・天文講座(天体観察やミニ望遠鏡づくり) ・自然物を活用したクラフト作製 ・深雪体験 	10/16(土)～10/17(日)	小学5年生～ 小学6年生
8	【地域ぐるみ事業】 ばんだいきッズキャンプ	年長児を対象に、自然の大きさ、美しさ、不思議さに直接触れる体験を通して、豊かな感情や好奇心、思考力を培うとともに、自然の中で体を動かす楽しさを味わいながら、幼児期に必要な運動能力や体力の基礎を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児が自然との関わりを深めることのできるプログラム ・自然体験や外遊びによる幼児期の36の運動基本動作の体現をするプログラム ・幼児期の自立や自律の支援に係るプログラム 	①7/10(土)～7/11(日) ②10/30(土)～10/31(日)	幼児と保護者
9	【地域ぐるみ事業】 「日本の正月文化を楽しもう！」	<ul style="list-style-type: none"> ・書初めや昔遊びに挑戦したり、正月料理を味わったりすることで、日本の伝統文化に親しめるようにする。 ・「福島県書初め展」の課題を練習することにより、文字を整えて書く力を育成する。 ・有名校書道部等の書道パフォーマンスを鑑賞することを通して、書道の素晴らしさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「書初め練習」 ・「書道パフォーマンス」 ・「正月飾り作り」 	12/18(土)	福島県内の 小学3年生～ 中学3年生 及び指導者 (教員・ 塾講師等)

10	【地域ぐるみ事業】 ふれんどキャンプ (防災編)	ゲーム性のある防災学習を題材に協力・信頼の大切さを知る。また、協力して課題を解決する経験を通して自己肯定感とコミュニケーション能力の向上を図る。	・防災カードゲーム(2種類) ・身近なもので応急手当する方法 ・チラシで紙皿づくり ・ロープで救助する方法 ・毛布で担架などのグループ活動	1/15(土)～1/16(日)	小学5年生～ 小学6年生
11	【令和3年度「体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト」 ぼんだいやグレッシブ・キャンプ	大自然の中でカヌーやサイクリング等の身体運動を行うことで体を動かすことの楽しさや充実感を味わわせ、運動習慣形成の端緒とすることを目指す。また、前述の活動にアウトドアクッキングを加えた自然体験活動を通して、課題解決能力やコミュニケーション力、豊かな人間性などの「生きる力」を育むことを目的とする。	・松原湖カヌー体験 ・松原湖周辺サイクリング ・星空観察	10/9(土)～10/10(日)	小学校4年生～ 中学校3年生
12	【会津・山形「体験の風をおこそう」運動推進事業】 あらうんどキャンプ	福島県内の国立・公立の青少年教育施設が連携し、各地の自然や施設の特徴を生かした体験や歴史探訪を行い、福島の魅力を発見する。	・そり遊び ・スノーシューハイイク ・雪灯籠づくり ・雪中キャンプファイヤー 等 ※会津自然の家、飯豊少年自然の家との連携事業(予定)	1/8(土)～1/10(月)	会津と 山形地域の 小学4年生～ 小学6年生
13	【会津・山形「体験の風をおこそう」運動推進事業】 第5回いなわしろフェスティバル(春)	関係機関や団体と連携し、体験活動や地域の魅力を広く発信する。	・子ども体験遊びリンピック ・森のスライダー ・創作活動 ・野外クッキング ・そり遊び ※関係機関・団体と連携して事業展開	6/5(土)～6/6(日)	家族・ 地域一般
(2) 青少年教育指導者等の養成事業					
14	【自然体験活動指導者養成事業】 NEAL リーダー養成講習会	自然体験の特定の活動プログラムを指導する自然体験活動指導者(リーダー)を養成する。	・全国共通の指導者養成カリキュラムに沿った指導者の養成 ・養成した指導者の事業への参画の推進 ・概論I	10/9(土)～10/11(月)	18歳以上
15	【ボランティア養成・研修事業】 ボランティアセミナー	「ボランティア養成共通カリキュラム」に準拠したプログラムを実施することにより、教育事業や研修支援等の運営協力・指導補助などを担うことのできるボランティアを育成する。	・講義【青少年教育施設の現状と運営、青少年の理解、ボランティア活動の意義】 ・実習【普通救命救急講習、野外活動】	5/8(土)～5/9(日)	16歳以上
16	【ボランティア研修・自主企画事業】 ボランティアスキルアップ	ボランティア育成ビジョンの中期ビジョンにある育成プログラムに基づき、法人ボランティアのスキルアップを図るための研修の機会とする。また、ボランティアの社会参画を促すために、ボランティア自身が主体的に企画・運営をする自主企画事業も実施する。	・先輩ボランティアから学ぶ野外活動研修 ・企画指導専門職も参加しての話し合い ・ボランティアによる自主企画の立案・運営 ・ボランティアミーティング	①6/26(土)～6/27(日) ②9/25(土)～9/26(日) ③10/23(土)～10/24(日)	法人ボラン ティア
17	【教員免許状更新講習】(選択18時間) 「教科指導や学級経営に生かす体験活動の指導」	今日の社会的環境、児童の現状、発達段階を踏まえ、体験活動の意義と必要性、教育的効果を理解する。また、自然体験活動を実際に体験し、教師に求められるコミュニケーション能力や自然体験活動の指導方法を身につけ、教師としての指導力向上を図る。	・講義【体験活動と子供たちの変容、学校における集団宿泊学習】 ・実習【体験活動指導技術】	8/18(水)～8/20(金)	小・中学校 教諭
(3) 東日本大震災復興支援プロジェクト					
18	【東日本大震災復興支援】 【防災・減災教育事業】 「第7期福島こども未来塾 ～えがお輝く ふくしまの未来～」	○農林水産業、工業、歴史・文化、最先端技術などの体験的な学習を通じて、福島の魅力や課題について再考する。 ○様々な学習・体験活動を通じて、多面的・多角的な視点から福島や自分のことを再認識し、未来への希望を持ち、行動できるようにする。 ○未来塾生(高校生)OBOGをボランティアとして募集し、活動を通じて交流を深め、これまでの体験や経験を先輩塾生から学ぶ。	①開塾式 ②復興 ③YA ④USF ⑤SDGs ⑥OBOG会 ⑦閉塾式	①6/19(土)～6/20(日) ②10/23(土)～10/24(日) ③11/6(土)～11/7(日) ④10/9(土)～10/10(日) ⑤11/20(土)～11/21(日) ⑥12/11(土)～12/12(日) ⑦1/22(土)～1/23(日)	小学校5年生～ 中学校2年生

2 次代を担う青少年の自立に向けた健全育成事業

(1)モデル的事業（特色あるプログラム・実践研究事業）「アクティブ・ジオキャンプ」

【期 日】 令和3年7月25日(日)～8月7日(土) 【参加者】 小学生11名 中学生3名 合計14名



○事業趣旨

- (1) 子供たちの健やかな成長に必要な強い心と体を育てるために、「食育」と「運動習慣づくり」のアプローチから基本的な生活習慣の醸成を図る。
- (2) 磐梯朝日国立公園を中心とした立地条件を生かした冒険的な活動を通じて、仲間と協働して困難を乗り越えるために技術や精神を培い、達成感を味わいながら、長期キャンプの魅力を発信する。

○参加者内訳（計14名）

	小5	小6	中1	中2	中3	合計
男子	5	3	1	0	1	10
女子	3	0	0	0	1	4
合計	8	3	1	0	2	14

○活動日程

	期日	内容	留意
ジオ チャレンジ	7月25日(日)～ 7月26日(月)	【ジオチャレンジ】 ・磐梯山のジオパークについての講話・体験 ・講話・体験 ・磐梯山火山図鑑	□ 磐梯山のジオパークについての講話、体験活動を行います。
ネイチャー チャレンジ	7月27日(火)～ 8月3日(日)	【ネイチャーチャレンジ】 ・二山登山体験 ・シヤウタライエンダ体験 ・チャイタラシ ・カヌー体験 ・食育体験	□ 磐梯山・安達太良山、二山登山で登山を行います。 □ 小野川不動滝で自然観察を行います。 □ 磐梯朝日国立公園でチャイタラシやカヌー体験を行います。 □ 磐梯朝日国立公園で食育体験を行います。
磐梯朝日 チャレンジ	8月4日(水)～ 8月7日(土)	【磐梯朝日チャレンジ】 ・磐梯朝日1週間の振り返り ・まとめ、発表会	□ 磐梯朝日1週間の振り返りを行います。 □ 活動全体を振り返りを行います。

○活動トピックス

○ジオチャレンジ（7/25～26）

「アイスブレイク、目標設定」

出会いの会の後、ボランティアと共に、交流の家職員によるアイスブレイクを行った。今年度は、初めて参加する参加者が多くいたこともあり、初めのうちは緊張していた子が多かった。アイスブレイクをきっかけに、その後の活動では、知らない子たちとも関わろうとしたり、活動班で協力し合ったりと積極的な姿勢が徐々に参加者から見られた。また、自分の活動班の仲間をほとんどの参加者がアイスブレイクを通じて覚えることができた。

その後、参加者はアクティブ・ジオキャンプ期間中の個人目標や活動班の目標を立て、横断幕に書き写した。参加者からは、「仲間と協力し合い、一所懸命頑張りたい。」「最後まであきらめずに頑張る。」など、2週間のキャンプに対する高い意欲が感じられた。

「磐梯山噴火・ジオパークについての講話、磐梯山ジオラマ作り」

今年度も磐梯山噴火記念館の佐藤公館長、磐梯山ジオパーク協議会の方々の協力をいただき、映像資料による火山の解説や噴火に関する模擬実験、磐梯山のジオラマ作りなどを行った。また、火山に関する話だけでなく、昨今の台風や大雨による自然災害についても解説いただいた。振り返りでは、「噴火や岩なだれがどうして起こるのかを知ることができた。」や「火山の恐ろしさだけでなく、美しさについて知ることができた。」などの感想が参加者から挙がった。翌日以降の活動に向けての関心や意欲を高めることができた。



「噴火口探検と五色沼散策」

磐梯山ジオパークガイドの田島一博氏から解説をいただきながら、噴火でできた磐梯山噴火口や銅沼、五色沼周辺を散策した。

ガイドの方から、噴火により「岩屑なだれ」が起こり、「流れ山」や桧原湖・小野川湖などの堰き止め湖ができたことを知ると、自然の力の大きさを実感する様子が見られた。前日の講話で聞いた、噴火がもたらす威力や美しさという自然の持つ二面性を改めて感じていた。

疲れた様子が見られた参加者もいたが、振り返りでは、「磐梯山の噴火によってできた風景は、昔の噴火の様子を今に伝えていることがわかった。」や「山を見て、地震や噴火の大きさがわかった。」など、自然豊かな景色や自然の雄大さに触れている参加者が多数いた。



〇ネイチャーチャレンジ（7/27～8/3）



「自然散策、一切経山登山、磐梯山登山」

今年度は研修指導員の大竹力、大竹かおる両氏の指導のもと、施設周辺の自然散策（台風接近の影響により、安達太良山登山の予定から変更）、一切経山と磐梯山の登山を行った。

自然散策では、交流の家周辺の植物の観察を行った。また、研修指導員の方から、歩く際の装備や注意点などを中心に指導していただいた。活動を通じて、参加者に翌日以降の登山活動への意欲を高めたり、安全管理の意識付けをしたりすることができた。

一切経山と磐梯山登山では、参加者からは時折疲れた様子も見られたが、全員無事に登頂することができた。また、活動班を中心に励まし合う声かけも増えた様子から、全体的な成長が見られた。振り返りでは、「一切経山の登山の時に、食虫植物があることにおどろいた。」「磐梯山は、表と裏で見える景色の違いが見てわかった。」など、自然体験を通じて、様々な発見をした参加者が多く見られた。

「小野川不動滝シャワークライミング」

川での活動ということで、水の事故やけがなどの危険を伴うことをしっかりと認識させ、準備運動を行った。また、ライフジャケットやヘルメット、マリンシューズなどの正しい装着の方法を指導し、活動を開始した。活動の際には、仲間に動きやすい石の存在などを知らせたり、助け合ったりするとお互いに安全に気をつけようとする姿が見られた。「険しい道を歩き切ることができてよかった。」など達成感を味わえた様子が多数の参加者から伺えた。



「カヌー、湖水浴、サイクリング体験」

裏磐梯桧原湖で2日にわたり、カヌー・湖水浴・サイクリング体験を行った。カヌーでは、パドルの持ち方や漕ぎ方の指導を受けてからカヌーに乗って湖岸周辺を回るカヌー体験を行った。最初はカヌーの操作に苦戦している参加者が多く見られたが、次第に前後の2人で息を合わせ協力して漕ぐことがポイントだと気づき、声を掛け合いながら上手にカヌーを進められるようになった。

湖水浴では、安全に留意しながらも、思い切り楽しんで、コロナ禍による自粛のストレスを発散している様子も見られた。

サイクリングでは、少し遅れてしまう参加者もいたが、仲間同士で声を掛け合いながら全員でゴールをすることができた。2日間とも天候に恵まれ、先日登ったばかりの磐梯山を眺めながら、全てのプログラムを予定通り実施できた。

「食育体験プログラム（場所：中川牧場、宇川ブルーベリー



園、のうのば、天授ファーム)」

今年度から新たに取り入れた食育体験プログラムでは、地元農家のご協力のもと、生産者の方々の仕事への想いや工夫について話をしたり、収穫体験をしたりした。

また、収穫体験でいただいた作物を使って、野外炊飯（カレーライス、冷製サラダ作り等）を行った。活動を通して、普段野菜が苦手な参加者も進んで食べたり、農作物への関心を示したりする参加者が多く見られた。

振り返りでは、「農業は、水・大地・空気・日光・栄養・人の手間で成立することがわかった。だからこそ、食材を残さないようにしたい。」や「伝統野菜と普段食べている野菜を比べて、野菜の品種が違うだけで味や食感が全然違うことがわかった。」など、食べることの大切さや農家の方々の工夫等について多く挙がった。



○猪苗代湖チャレンジ（8/4～8/7）

「猪苗代湖一周チャレンジウォーク」

仲間と協働して困難を乗り越えるために技術や精神を培い、達成感を味わうことをねらいにして、今年度は2年ぶりに猪苗代湖一周チャレンジウォークを実施した。今年度は猛暑や荒天の影響を考慮して、猪苗代湖周辺の道のり約67kmを3日に分けて歩いた。



1日目は、交流の家から秋山浜キャンプ場まで歩く予定だったが、猛暑の影響で、参加者の体力の消耗が非常に激しかったため、1日目のゴール地点を秋山浜キャンプ場から中ノ沢に変更した。約27kmという長い距離を歩いた影響で途中、1人体調不良になったが、全体的に隊列から遅れる参加者もなく、予定通り初日のゴール地点の中ノ沢に到着した。



2日目は、中ノ沢から会津レクリエーション公園まで約26kmの道のりを歩いた。昨日より、アップダウンが激しいコースで、参加者からは疲れや足の痛さなどが見られたが、友達と声を掛け合いながら、一生懸命前に進む姿が見られた。

3日目は、会津レクリエーション公園から交流の家までの残り約14kmの道のりを力強く歩いた。参加者からは前日までの疲れや足の痛さなどが見られたが、最後は笑顔で仲間達とゴールすることができた。ゴールの際は、肩を掛け合ったり、手をつないだりして全員でゴールした。参加者達はゴールできたことを全員で喜び合い、その様子からは充実感と達成感が溢れていた。振り返りでの、「ゴールした時にとっても達成感があった。」や「最後まで歩くことができて感動した。」などの声からも伺えた。



「発表会・スライド上映・アクティブ・ジオキャンプ2021修了証書授与」

最終日は、はじめにアクティブ・ジオキャンプで学んだことや今後に活かしていきたいことなどについて、作文にまとめ、発表会を行った。「家に帰ったら手伝いをする。」や「学校でもこの経験を生かしてリーダーシップを発揮する。」など、参加者の多くが今後の生活に活かしていこうという意欲を感じた。

次にアクティブ・ジオキャンプの活動を振り返るスライド上映を行った。2週間という長期キャンプで困難な活動を乗り越えたことや楽しかったことなど、様々な思い出を振り返っている様子が見られた。

別れの会では、一人一人に修了証書を授与した。参加者の表情から、2週間の活動をやり切ったという達成感や充実感が感じられた。また、友達との別れを惜しむ様子が見られた。別れの会の終了後や発表会の際には、参加者から「また来年も参加したい。」という声が多数挙がった。



○事業アンケートより 「アクティブ・ジオキャンプ2021」について（参加者 計14人）

①全体的にこのキャンプはどうでしたか。

とてもよい	よい	あまりよくない	よくない
10	4	0	0

②いろいろなプログラムの活動はどうでしたか。

とてもよい	よい	あまりよくない	よくない
11	3	0	0

③交流の家の人はどうでしたか。

とてもよい	よい	あまりよくない	よくない
11	3	0	0

④ボランティアのお兄さん・お姉さんはどうでしたか。

とてもよい	よい	あまりよくない	よくない
14	0	0	0

⑤このキャンプに来てよかったですか。

とてもよかった	よかった	あまりよかった	よくなかった
12	2	0	0

⑥またこんなキャンプがあれば参加したいですか。

ぜひ参加したい	参加したい	あまり参加したくない	参加したくない
10	3	1	0

○参加者の感想

- ・ とても楽しい体験ができたので、来年も参加したい。
- ・ 最初は不安ばかりだったけど、どんどん友達ができてよかった。
- ・ とてもメンバーが愉快で楽しかった。
- ・ 初めて会った人や前に会った友達と仲良くできてよかった。来年も参加したいと思う。

○成果と課題

<成果>

- アンケート結果にもある通り、全体的に参加者から高い満足度を得ることができた。
- 今年度は福島県限定の募集となったが、参加者にとっては、地元について知る機会になった。
- 思い切り野外活動することで、コロナ禍の自粛のストレスを発散できる良い機会であった。
- 食育体験プログラムは初めての試みであったが、活動の様子や参加者の感想から、活動を通じて食べる量が増えたり、苦手な食べ物でも食べることができたりすると感じる参加者が多く見られた。

<課題>

- ▼ 3日目に台風の直撃の心配があり、施設周辺での活動に変更したが、仮に野外での活動が全くできない場合は、ビジターセンターや磐梯山噴火記念館での見学などの活動も視野に準備をしていく必要があると感じた。
- ▼ 今年度は、3年ぶりに2週間の長期キャンプの実施となったが、実施前やキャンプの前半に不安になる参加者や家族が存在した。特に長期キャンプの場合は、事前説明会の開催や事前キャンプの実施等の手立てが必要であると感じた。
- ▼ 体調不良により、全日程参加できなかったことで自信や意欲をなくしてしまった参加者がいた。

2課題を抱える青少年の支援事業（生活自立支援キャンプ）「学び・チャレンジキャンプ」「わくわくキャンプ」

【期 日】 令和3年6月～令和3年11月(全3回) 【参加者】 幼児・児童・生徒と施設職員

○事業趣旨

経済的に困窮した家庭の子供を対象に、自然体験等の活動を通じた「生活・自立」を支援する取組を行い、子供達の基本的な生活習慣の確立や自立する力を身に付けることを目指す。

○期日・参加人数・内容

事業名	学び・チャレンジキャンプ春
実施日	令和3年6月26日(土)～27日(日)
連携機関	特定非営利活動団体
参加人数	17名(小学生7名、中学生4名、高校生1名、施設職員5名)
主な内容	野外炊飯(鳥の丸焼き)、こけし作り体験、ナイトハイキング
事業名	わくわくキャンプ秋
実施日	令和3年10月16日(土)～17日(日)
連携機関	児童養護施設
参加人数	18名(小学生13名、施設職員5名)
主な内容	野外炊飯(鳥の丸焼き)、ナイトハイキング、鶴ヶ城・武家屋敷見学
事業名	学び・チャレンジキャンプ秋
実施日	令和3年11月27日(土)日帰り
連携機関	特定非営利活動団体
参加人数	18名(小学生7名、中学生4名、高校生3名、施設職員4名)
主な内容	ニュースポーツ、天体講演会、望遠鏡作り
事業名	わくわくキャンプ冬
実施日	令和4年2月5日(土)～6日(日)→コロナの影響により中止
連携機関	児童養護施設
参加人数	18名(小学生13名、施設職員5名)
主な内容	遊びリンピック体験・いなわしろフェスティバル参加

○研修トピックス

「学び・チャレンジキャンプ(春・秋)」

鶴ヶ城・武家屋敷見学では、歴史の街「会津若松」についてのお話をさせていただき、理解を深めることができた。参加した児童・生徒も興味津々で話を聞いていた。また、「こけし作り体験」では、土湯こけし作りの職人の方に直接説明をして頂いたため、伝統工芸品への関心を高め、個性的な作品を作ることができた。

「わくわくキャンプ(秋)」

当施設オリジナルプログラムの「白虎隊の歩いた道ウォークラリー」を取り入れたことで、児童・生徒たちの粘り強く取り組む力を高めることができた。また、ナイトハイキングは、「改めて自然の価値を学んだ。」「夜の山道を歩いたのは、生まれて初めてだった。怖かったが貴重な体験ができた。」「迫力満点で映画のようだった。」等の感想が多く、充実したプログラムであった。

○成果と課題○

<成果>

- 野外炊飯において、初めて包丁を使う児童にとって難しい作業であったが、切り方の見本や作業順を紙で貼り出すことで意欲的に取り組むことができた。児童の日記に「また野菜を切ってみたい。」と書かれていたことから、今回の体験が興味・関心の醸成につながったと思われる。
- 野外炊飯では、参加者が悪戦苦闘しながら火おこしをしていた。初めてダッチオーブンで鳥の丸焼きの体験ができた。
- 望遠鏡作りでは、友達と協力しながら望遠鏡を組み上げることができた。今後も、天体について調べようという声がかかれ、関心を高めることができた。
- 野外炊飯の後片付けでは、冷たい山水であるにも関わらず、鍋や鉄板などのすすを金属たわしで一生懸命に洗ったり、率先して食器をしまう児童が多く見られ、子どもの成長が感じられた。

<課題>

- 事業で連携したいわき育英舎との対面での打合せを昨年度は行ったが、今年度は新型コロナウイルスの影響もあって実施できなかった。できれば、対面もしくはオンライン等で顔を合わせての打合せをすることで、参加者の不安軽減や事前の支援ができると思われる。
- 新型コロナウイルス対応で、直前で変更があったり、事業が中止になったりすることがあった。来年は、状況に臨機応変に対応し、円滑に実施できるように工夫したい。

(3)令和3年度 全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」

【期 日】令和3年4月14日(水)～令和4年2月19日(土) 【参加者】福島県立猪苗代高等学校1年生

○事業趣旨

オリエンテーション合宿を通して、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力等について学び、多様な人々と協働しながら地域・社会にある課題解決に向けた地域での実践活動を通して、郷土や自然に愛着をもち、新たな価値を創造する高校生を育成する。

○協力団体

- ・猪苗代町青年会議所
- ・会津若松地方広域市町村圏整備組合猪苗代消防署
- ・福島県警察署
- ・自衛隊福島地方協力本部
- ・福島県立博物館
- ・磐梯山噴火記念館
- ・一般社団法人Bridge for Fukushima (BFF)



○主な活動日程

日 時	内 容	会 場
令和3年4月14日(水)	○ガイダンス ○アイスブレイク	猪苗代高校
令和3年5月7日(金)	○防災減災について課題把握①、講義・演習① 講師：福島県立博物館 学芸員 筑波 匡介 氏	猪苗代高校
令和3年5月14日(金)	○フィールドワーク① 「自然災害探究」 講師：磐梯山噴火記念館 館長 佐藤 公 氏	北塩原村裏磐梯地区
令和3年6月3日(木)	○講義・演習②「防災減災の基礎」 ○フィールドワーク①「防災減災」 ・防災炊飯	国立磐梯青少年交流の家
令和3年6月4日(金)	○フィールドワーク②「防災減災」 ・ロープワークの基礎 ○講義・演習③「防災減災」 ○振り返り①	国立磐梯青少年交流の家
令和3年6月11日(金)	○フィールドワーク③「防災減災」 ・噴火災害と地形の特徴	猪苗代町
令和3年6月18日(金)	○振り返り② ○発表①	猪苗代高校
令和3年12月17日(金)～ 令和4年2月4日(金)	○課題解決・行動計画の基礎	猪苗代高校
令和4年2月19日(土)	○発表②	猪苗代高校



○研修トピックス

【防災・減災】

<4月14日(水)>

- 1年間を通して猪苗代町の「防災」「観光」「農業」の分野について学び、猪苗代町を知り、地域の課題について探究していくプロセスを学んでいくことを共有した。
- これらの活動を通して、クラスの仲間同士のつながりや考え・意見を出しやすくする雰囲気をつくるためにレクリエーションやグループエンカウンターを実施した。

<5月7日(金)>

「防災減災について～課題把握①、講義・演習①」

福島県立博物館 学芸員 筑波 匡介 氏

- ①東日本大震災・原子力災害について
- ②災害時に高校生ができることについて(クロスロードゲーム)
 - ・ 避難所運営において、困難な意思決定の場面を課題設定し、意見の違う他者との折り合いの付け方を過去の避難所体験から学ぶ。
 - ・ 避難所運営において、リスクマネジメントについて事前に想定し、対応策を練る。



<5月14日(金)>

「フィールドワーク①」磐梯山噴火記念館 館長 佐藤 公 氏

- 「磐梯山噴火記念館」へ行き、館長から講話をいただき磐梯山噴火における災害の特徴と対策に考えることができた。その後、山体崩壊の現場調査に出かけた。

<6月3日(木)>

「講義②」～災害時の避難所運営について～

- 猪苗代町青年会議所(他4施設)より、それぞれの特性を踏まえた災害時の避難所運営について話をいただいた。

「演習②」

- HUG(避難所運営ゲーム)訓練
 - ・ 協力団体と高校生を混合にして6つのグループに分かれHUG訓練を行い、各グループでリフレクションした内容を共有した。

「フィールドワーク①」

- 防災炊飯として、自衛隊の方から指導を受けながら飯盒炊飯を行った。初めて行う飯盒炊飯に戸惑いながらも炊飯体験をすることができた。

<6月4日(金)>

○ フィールドワーク②「防災減災」

- ・ ロープワークの基礎を学び、ビニールシートを用いて野営所をグループごとに作成した。実践を積むことで紐の使い方や設営に必要なスキツを身に付けることができた。
- 講義・演習③「防災減災探究」
 - ・ 磐梯山登山に向けてのレクチャーを受け、フィールドの確認と安全管理について考えることができた。



<6月11日(金)>

○ フィールドワーク③「防災減災の探究」

- ・ 噴火災害と地形の特徴について、登山をしながら研修指導員大竹力氏より説明を聞きくことで当時の噴火の凄まじさや噴火がもたらした影響について学ぶことができた。

<6月18日(金)>

- 防災減災についてこれまでの活動で学んだことや印象に残っていることについてまとめ、全体で発表し質疑応答を繰り返し学びを深めることができた。

○成果と課題

<成果>

- 様々な機関から講話をいただき、演習やフィールドワークを行ったことで避難所運営や災害時の行動について考えを深めることができた。「自助・公助・共助」について学ぶ良い機会となった。
- 学校側の協力により、参加した生徒は積極的に話し合う姿や学ぶ姿勢が見られた。学校では経験できないような活動ができ、生徒にとってとても貴重な体験となった。

<課題>

- 活動内容の計画、提案では、学校側の時間の確保と指導内容のすり合わせが難しく感じた。計画段階から年間計画にも入れていただき、生徒や学校の実態を踏まえ綿密な計画をする必要がある。

(4)令和3年度 全国高校生体験活動顕彰制度オリエンテーション合宿 「福島の復興・創生、その先に…～明るい未来を Output～」

【期 日】 令和3年7月22日(木)～7月24日(土) 【参加者】 福島県内高等学校1年生～3年生

事業趣旨

- ・高校生が地域づくりや地域の課題解決などに関する体験活動を通して、課題発見・問題解決能力を身に付け、新たな価値を創造する人材育成に資する。
- ・高校生がそれぞれ取り組む実践活動の成果や自身の成長を評価し、青少年の体験活動に関する社会的な認知を高める。

参加者内訳

	高校1年生	高校2年生	高校3年生	合計
男	0	4	0	4
女	1	1	1	3

活動日程

	午前	午後
7/22 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャンボタクシー福島駅発、郡山駅発 ・開会式（福島いこいの村なみえ） ・講話（HAMADOORI 13） ・フィールドワーク（松川浦ガイドの会） 	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワーク（東日本大震災・原子力災害伝承館） ・地域理解と地域探究の把握 ・地域課題に関するフィールドワークの進め方 ※宿泊先【福島いこいの村なみえ】
7/23 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・コース別フィールドワーク ○食べてもらう（海産物・製麺） ○来てもらう（観光協会・旅館） ○知ってもらう（太陽光/水素発電・体育施設） 	<ul style="list-style-type: none"> ・国立磐梯青少年交流の家へ移動 ・グループ別の地域課題の探究 ・グループ発表 ※宿泊先【国立磐梯青少年交流の家】
7/24 (土)	<ul style="list-style-type: none"> ・個人テーマの設定と進め方 ・個人テーマの発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践活動に向けてのガイダンス ・閉会式 猪苗代駅へ送迎



研修トピックス

<参加者から見た浜通りの復興・創生の理解と地域探究の学び>

参加者は、「HAMADOORI 13」の方々の震災直後の話を聞き、浜焼きを復活させた松川浦ガイドの会代表の方との対話の中で復興・創生に対する思いや熱意を感じ取り、福島県浜通り地区の復興に向けて挑戦し続ける福島の人の姿勢が、地域づくりや地域の問題を解決する力となると実感できた。「地域理解と地域探究の把握」の時間では「帰ってきたときに少しでも笑顔になれるように」「小さな運動が少しずつ広がっていった」「自分の目標を見つけることが大事」等、キーワードや地域を活性化させるための手掛かりとなった言葉を付箋に書いてホワイトボードに掲示していった。そしてボードに貼った付箋を見て、皆が同じ思いを感じたり、自分では感じられなかった考えを見て共感したりする姿が見られた。また、「東日本大震災・原子力災害伝承館」の見学や浪江町内を見て感じ取った思いを同様に付箋に書き、グループ化することで浜通り地区の現在を見つめ直した。参加者は地震の被害の様子を知ったことよりも、「故郷に帰れない人」「関連死が多い」「原子力災害以外の大地震によるデメリットに目を向ける必要性」と浜通りの抱えている課題に目を向ける意見が多く、地域の復興や創生に向けて、様々な課題が山積みし、復興・創生への取り組みに労力を要する現実と直面した。一方で参加者たちにとっては地域と自己を見つめ直す機会になり、「考えることよりも、まず行動を起こすこと、踏み出すこと」の大切さを感じ取る者もいた。

<地域課題の探究、3つのコースでの学び>

観光コースでは、参加者が見学した観光協会の語り部さんから温泉街の復興の取り組みについて聞いたことを基に、利用者数の減少をグラフ化した上で、観光客の回復のためには、浜通りの現状を知った人々自らが語り部となることが風評払拭の一つの策ではないかと考えを発表した。新産業コースでは、見学してきた震災によって新たに生み出された水素エネルギー研究や運用が進んでいるソーラー発電、Jヴィレッジでの取り組みから、新たな可能性のある産業が福島から生まれていること、スポーツ施設の迎ってきた姿を隠さずに発信していくことが「知ってもらう」ことに繋がり、復興のシンボルになるのではないかと発表した。食文化コースでは、海産物の現状を伝えたり、おいしい焼きそばの作り方を写真で見せたりして、福島県の食べ物が目に見える場面を増やしていくことが大切であるとし、食べてもらうことが良さを広める活動のきっかけになると発表した。

○成果と課題

<成果>

- 参加者は地域の復興・創生に携わっている方々の取り組みから、地元を大切にしたい気持ち、地域に目を向けさせるための取り組みを学ぶことができた。東日本大震災・原子力災害伝承館の見学では震災後、復興には様々な課題が山積みしていることが分かり、復興・創生への取り組みに労力を要する現実と直面した。参加者は、まず行動を起こす必要性を強く感じていた。
- 参加者は各コースのフィールドワークにおいて、各施設の復興・創生に携わっている方々の言葉を聞き、課題に対する解決の方策を得ることができた。各コースで学んだことを、数値的なグラフや写真を効果的に使って発表することができた。今回の合宿で、味わったり体験したりすることが人の気持ちを動かすことを知り、その学びを生かし、フィールドワークで学んだ水素エネルギーの有用性を福島県内に広める活動、福島県産の農作物の消費拡大の取り組みなど、自分の住む地域活性化計画の立案につながった。テーマと計画を発表したそれぞれの参加者は、夏休み中の実践活動に向けて意欲を高めることができた。

<課題>

- 福島県内では、新型コロナウイルスの感染拡大が依然として予断を許さない現状である。オリエンテーション合宿に参加した参加者は、この状況下においても、電話や手紙で情報等をやり取りするなど工夫しながら地域活性化計画を進めようとしている。しかし、外出自粛や感染リスクの高い活動の禁止等を余儀なくされてしまい、対面での大人数の集いや講演会の開催が難しく、集いや講演会を用いた情報発信が難しいことから、情報発信の方法に課題が残った。

(5) GW 家族対象事業 「体験の風をおこそうプロジェクト2021」

【期 日】 令和3年4月29日(木), 5月2日(日), 5月3日(月), 5月4日(火), 5月5日(水) 計5日 【参加者】 福島県内の家族



○事業趣旨

・ピザづくり（野外炊飯）やニュースポーツ、ばんだい自然体験プログラムを家族で体験し、家族の絆を深める。また、自然環境に興味をもつ。

○参加者内訳

対 象	家族数	男	女	計
4月29日	6	6	10	16
5月2日	2	5	3	8
5月3日	6	10	14	24
5月4日	3	4	5	9
5月5日	1	2	2	4
合 計	18	27	34	61

○活動日程

	9	10	11	12	13	14	15
露天時		交代	野外炊飯 ペットボトルでピザ作り?		休憩	自然の中で遊ぶ 楽しむいっぱい 自然体験プログラム みんなのニュースポーツ へえがいっぱい! 樹木オリエンテリング	夜
露天時		交代	野外炊飯 ペットボトルでピザ作り?		休憩	ニュースポーツでさわやかな汗を!	夜

○研修トピックス

「野外炊飯～ペットボトルでピザづくり～」【すべての回で実施】

ペットボトルを使ったピザづくりに挑戦した。小麦粉、水、ドライイーストをペットボトルに入れ、一生懸命ペットボトルを振る作業をどの家族も楽しく行っていた。ピザの具材を切る場面では、お家の人からアドバイスを受れたり、サポートされたりして家族で協力して取り組む姿が多くみられた。

「ニュースポーツ ～みんなでニュースポーツ～」【4/29 5/5実施】

手裏剣をつかったストラックアウトやカローリングなどのニュースポーツを家族で楽しんだ。子どもたちも夢中になって遊んでいたが、大人も子どもに負けずに活動する姿が多くみられた。

「野外活動① ～楽しさいっぱい 自然体験プログラム～」【5/2 5/3 5/4実施】

森のビンゴやフィールドビンゴなどのばんだい自然体験プログラムを行った。このアクティビティを通して、葉っぱや木の枝をよく見たり、鳥の音を聞いたりして自然のよさを味わっていた。

「野外活動② ～へえがいっぱい 樹木オリエンテリング～」【5/2 5/3実施】

地図などの資料を見ながら、ひとつでも多く正解するように一生懸命取り組む姿が見られた。木のことについて初めて知ったことなどがあり、木について興味をもつ家族もいた。

○成果と課題

<成果>

参加者アンケートには「野外炊飯をしたり、家族でいろいろな体験をしたりいい時間を過ごせてよかった」と書いていた。一緒に取り組む活動を提供したことにより、家族の絆を深めることができた。

<課題>

新型コロナウイルス感染症などの流行に伴い、キャンセルが相次いだ。募集段階で、新型コロナウイルス感染症対策などを明記し、参加者が安心して行えることを伝える必要があった。

(6)子どもゆめ基金20周年記念事業 「はばたけ！ Bandai Bilingual Kids!!」

【期 日】【第1回】令和3年10月30日(土)～31日(日)

【第2回】令和4年2月19日(土)

【参加者】福島県内の小学5年生～中学2年生

◇事業趣旨

国際社会で活躍しようとする人材育成につなげることを目的に、地域の関係機関や地域在住の外国の方々との連携を図り、国際交流の視点から様々な国の言語や文化を体験させ、異文化理解や外国への興味・関心につなげる。

第1回 ○期日：令和3年10月30日(土)～31日(日) 1泊2日

○日程：

	10月30日(土)	10月31日(日)
午 前	<ul style="list-style-type: none">・受付(10:30～11:00)・開会式(11:00～)・オリエンテーション、アイスブレイク	<ul style="list-style-type: none">・レクリエーション(英語)・伝統工芸品の説明文を英語で作ろう!
午 後	<ul style="list-style-type: none">・会津の伝統工芸品を作ろう!・世界の野外炊飯をしよう!・国を紹介し合おう!	<ul style="list-style-type: none">・振り返り・閉会式(14:00～)・解散(14:30頃)

○参加：14名(小学生12名、中学生2名)

◇研修トピックス

「アイスブレイク」

国際理解教育の視点から異文化理解や外国への興味・関心を高めるため、外国人の先生方4名(カナダ・バングラデシュ・タイ・フィリピン)を招き、様々な体験活動を通して楽しく外国の文化に親しんだ。具体的には、「自己紹介を兼ねたアイスブレイク」や「母国の紹介」を行っていただいた。



「世界の野外炊飯」

「世界4か国の郷土料理の野外炊飯」では、外国人の先生に教えていただきながら、調理を進めていった。一緒に調理をする中で、生きた英語に触れながら、日本の文化や生活様式の違いに気付いたり、新たなことを発見したりすることができた。会食の際には、外国人の先生と英語でコミュニケーションをとる姿が多く見られた。



「会津の伝統工芸品の紹介」

「会津の伝統工芸品」の説明を英語で作成し、発音練習等を先生方と行った。

「会津の伝統工芸品を世界に広めることができ、うれしい。」「日本と外国の違いについて、とても勉強になった。」「外国人の先生や友達と仲良くなれてよかった。」など、喜びの感想が多く聞かれた。

第2回 ○期日：令和4年2月19日（土） ※オンライン開催

○日程：

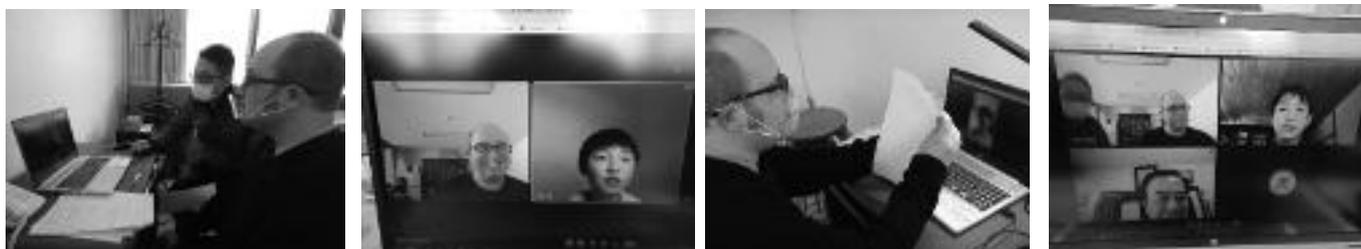
	2月19日（土）
午前	・オンラインによる開催（外国人の先生によるスピーチ指導）
午後	・オンラインによる開催（外国人の先生によるスピーチ指導）

○参加：5名（小学生4名、中学生1名）

「オンラインによる英語練習」

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、オンラインでの開催となった。GoogleMeet を活用し、外国人の先生による英文スピーチ練習を行った。各参加者の開始時間を事前に伝え、マンツーマンによる練習を行った。「第1回目」の開催で作成した英作文の発音やアクセントなどについて、外国人の先生と一緒に繰り返し練習した。最後には、参加者全員が聞き取りやすい発音や速さ・アクセントで話すことができるようになっていた。実際に外国人の先生から、直接褒められた際の笑顔が印象的であった。作成した英作文のスピーチ動画は、予め撮影しておいた会津の伝統工芸品の製作動画と合成・編集して1つの動画にし、動画配信サイトに投稿した。

「新しい生活様式に対応したオンラインでの事業実施」は、昨年度確立した方法であったため、円滑にオンライン開催をすることができた。今後も、新型コロナウイルス感染症の状況により、臨機応変に取り入れていきたい。また、このノウハウを他の事業においても生かしたい。



◇成果と課題

<成果>

- いろいろな活動を外国人の先生と一緒にやることを通して、英語に親しむ良い機会となった。知っている英単語をつなげて、コミュニケーションを図ろうとする参加者の姿が多く見られた。
- 多くの国籍の先生をお招きし、プレゼンテーションを活用して説明をしていただいたことにより、たくさんの方の国々の地理や文化・習慣について学ぶことができた。そのため、外国への興味・関心を高めることができた。（アンケート Q7 の結果、数値が向上。）
- カナダ・バングラデシュ・タイ・フィリピンの各国の郷土料理を、各国の先生の指導の下、調理したり味わったりする中で、「もっと外国の料理を作りたい。」等の声が多く聞かれた。（アンケート Q5 の結果、数値が向上。）

<課題>

- 第1回「はばたけ・バイリンガルキッズ」の2日目が、英作文を作ったり発音を練習したりするだけの時間になってしまった。「英語を学ぶ」ではなく、「英語で学ぶ」というプログラムになるように工夫・改善したい。

(7)子どもゆめ基金20周年記念事業 「ばんだい親子カヌーチャレンジ体験会」

【期 日】 令和3年10月2日(土)～10月3日(日)

【参加者】 福島県内の家族



○事業趣旨

- ・子どもとその保護者を対象に、桧原湖でカヌー体験等を行い、体を動かす心地よさと自然のすばらしさを実感できるようにする。

○参加者内訳

対象	男	女	計
未就学児	1	2	3
小学生	6	6	12
保護者	6	9	15
合計	13	17	30
家族数			8

○活動日程

		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23		
10月2日 (土)	雨天 荒天	台風の影響の為、16時30分集合に日程変更											受付	荷物移動	夕食	閉会式	休憩	親子ヨガ体験	花見	入浴	
10月3日 (日)	雨天 荒天		朝食	花見	松原キャンプ場に移動	カヌー体験	昼食	カヌーチャレンジ	閉会式												

○研修トピックス

「ヨガ体験」

台風の影響により、親子ヨガ体験からのスタートだった。講師の笠間先生から、肩甲骨周辺をほぐす動きを中心に指導していただいた。日ごろ使わない筋肉などを使ったことにより、「体が軽くなった」、「スッキリした」、「日ごろの運動不足ということが分かった」などの感想が聞けた。

「カヌー体験」

松原キャンプ場を会場に、カヌー体験を行った。初めに、オールの使い方、漕ぎ方練習を陸の上で行い、その後、桧原湖に出て、練習をした。参加者は、オールの扱い方にもすぐ慣れ、スイスイと漕ぐ姿が見られた。

「カヌーチャレンジ」

親子で吊り橋を目指すカヌーチャレンジを行った。片道30分かかる吊り橋を目指し、一生懸命オールを漕いだ。途中で風向きが変わり、なかなか進むことができなくなったり、遊覧船が通った後に大きな波が来たり、苦戦する場面も見られたが、親子で力を合わせて目的地につくことができた。

○成果と課題

<成果>

- 台風の影響で、変則的な日程になったが、ヨガ体験、カヌーの体験の活動する時間を確保することができ、参加者からも「実施してもらいうれしかった」、「カヌーの活動時間を思っていたよりも多くとっていただけてよかった」などの感想が聞けた。
- 自然の中を、親子でカヌーできるこのプログラムは人気がある。参加者のニーズがあることが分かった。

<課題>

- 親子ヨガは、保護者の方に人気があった。しかし、子どもたちには、「時間が長く感じた。」などの声があり、子どもの時間を短くするとかのプログラムの工夫が必要だと感じた。

(8)子どもゆめ基金20周年記念事業 「ばんだい自然体験プログラム」

【期 日】 令和3年10月16日(土)～10月17日(日) 【参加者】 小学校5～6年生

○事業趣旨

小学生を対象に、自然物や自然環境を活用した体験活動を通して、新しいことへ挑戦し、自分の力で課題を解決しようとする態度を養うとともに、達成感や成就感を味わわせ、自然に親しむ態度を育む。

○期日・参加者・内容・概要

ばんだい自然体験プログラム①

期日：令和3年10月16日(土)～10月17日(日) 1泊2日

日程：	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		
10/16 (土)						受付	開 会 式	アイス ブレイク	昼食 移動・準備 など	自然体験ゲーム			焼きも クリームシチュー作り		ナイトハイク	荷物 移動・寝具 セット	入浴	就寝 準備	就寝
10/17 (日)						起床 荷物整理	朝食	部屋 点検	森のクラフト	ハイキング			振り 返り	閉 会 式					

参加：福島県内の小学5・6年生 5名

内容：アイスブレイク、自然体験ゲーム、野外炊飯、磐梯山プチ登山等

概要： 初日の昼のプログラムでは、自然体験ゲームを行った。子供達は、施設内の森林の中で様々なゲームをしながら、赤く染まった木の実や葉っぱを楽しそうに拾う姿が見られ、一人一人が季節を感じながらとっておきの秋を発見することができた。夕食の野外炊飯では、秋の味覚を満載に盛り込んだシチューと焼き芋を堪能した。参加者同士で協力して手際よく準備することができた。その後実施したナイトハイクでも普段味わうことができない夜の自然の魅力を味わうことができた。

2日目は、あいにくの雨模様となったためプログラムを変更し、プチ登山の代わりに森のクラフトを実施した。集中して作品作りに取り組む姿が見られ、子供達は自由な発想力で素敵な作品を完成させた。10時頃に雨が止んだため、プチ登山のコースを短縮したハイキングを実施した。栗やドングリ、キノコなどを見つけながら楽しく歩くことができた。寒い中ではあったが、外でたくさんの活動を行い、秋の自然を満喫した2日間だった。



※本事業は全2回で実施予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、2回目は中止となった。

○成果と課題○

<成果>

- 自然体験ゲームやアウトドアクッキングなどを通じて、自然の魅力を子供たちに伝えることができた。また活動を通じて、新しいことへ挑戦したり、様々な参加者と関わる中で自分の力で課題を解決しようとしたりする姿勢が見られた。
- 参加者対象に行った事業終了後のアンケートでは、すべての項目で「とてもよい」または「よい」という回答が得られ、高い満足度であった。

<課題>

- 磐梯山プチ登山を企画したが、荒天のためプログラムを変更する必要がある。今後、どの教育事業でも荒天時に対応できるプログラムを施設全体で複数準備していく必要があると感じた。

(9)子どもゆめ基金20周年記念事業 「ばんだいキッズキャンプ①」

【期 日】 令和3年7月10日(土)～7月11日(日) 【参加者】 福島県内の幼児・小学生とその保護者

○事業趣旨

未就学児を対象に、自然の大きさ、美しさ、不思議さに直接触れる体験を通して、豊かな感情や好奇心、思考力を培うとともに、自然の中で体を動かす楽しさを味わいながら、幼児期に必要な運動能力や体力の基礎を養う。

○活動日程

		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		
7月10日(土)	晴天 荒天						受付	はじまりの会	アイスブレイク	昼食	休憩	こどもの森探検 探検しながら森の素材を見つけよう	創作活動 木の葉のメダル 森のクラフト	片付け	夕食	休憩	子育てカフェ 午後早起き期ごはん体験 遊びリンピック	休憩	入浴	就寝準備
7月11日(日)	晴天 荒天		朝食	準備	こどもの森遊び 体育館遊び遊具サーキット			野外炊飯 紙バックを使ってホット ドッグ作り&スープ	終わりの会											

○参加者内訳

対象	男	女	計
未就学児	4	2	6
小学生	3	2	5
保護者	5	4	9
合計	12	8	20
家族数			6



○研修トピックス

「こどもの森探検～探検をしながら森の素材を見つけよう」

子どもたちは、虫を観察したり、森のクラフトで使うための落ち葉や木の枝などを拾ったりした。カードを使い、自然の中で同じ色を見つけるなど、一生懸命取り組む姿が見られた。2日目の天候は、雨だったが、雨ガッパを着て森の中を散策した。雨の中でも子どもたちは、元気に森の中を探検した。

「創作活動 ～木の葉メダル・森のクラフト～」

探検で拾ってきた木の葉、小枝、松ぼっくりなどを使って、木の葉メダル、森のクラフトにチャレンジした。子どもたちは、木の葉の組み合わせを考えながら木の葉メダルを作った。それぞれ個性あふれるオリジナルのかわいいメダルを作ることができた。

「子育てカフェ」

「桜の聖母短期大学 庄子 佳吾氏」より、幼児期の自然体験のポイントについて話をいただいた。また、参加した保護者は、自己紹介、好きなものなどのお題に対してペアになり伝え合う活動などを行い、保護者同士の交流を深めた。



○成果と課題○

<成果>

- 対象を未就学児から小学校2年生までにしたことにより、小学生の活動の仕方が未就学児のお手本となり、どのプログラムでも意欲的に活動する姿が見られた。
- 参加者からは、「自然の物を使って楽しく遊ぶ姿を見て、もっと公園に連れて行こうと思った」などの感想が聞かれた。自然の中で遊ぶ楽しさや良さを感じさせることができた。
- こどもの森探検で、木登りや木の株渡りなど意欲的にチャレンジする子の姿が多く見られた。また、こどもの森の広場を汗いっぱい走る親子の姿も見られた。

<課題>

- 子育てカフェで、「もう少し、時間をとって保護者同士が抱えているなどの意見交換がしたかった。」の意見も寄せられた。保護者の方は、悩みを持ちながら子育てをしているため、話を聞いてもらえるだけでも安心することが分かったので、次回は、自由に話す時間も設定し、より充実した時間と場を提供したい。

子どもゆめ基金20周年記念事業「ばんだいキッズキャンプ②」

【期 日】令和3年10月30日(土)～10月31日(日) 【参加者】福島県内の幼児、小学生とその保護者

○事業趣旨

未就学児を対象に、自然の大きさ、美しさ、不思議さに直接触れる体験を通して、豊かな感性や好奇心、思考力を培うとともに、自然の中で体を動かす楽しさを味わいながら、幼児期に必要な運動能力や体力の基礎を養う。

○活動日程

		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		
10月30日(土)	晴天 荒天						受付	はじまりの会	アイスブレイク	昼食	休憩	こどもの森探検 探検しながら森の不思議を見つけよう	創作活動 木(き)ホルダーづくり	片付け	夕食	休憩	子育てカフェ 早寝早起朝ごはん体験 遊びリンピック	入浴	就寝準備	就寝
10月31日(日)	晴天 荒天		朝食	準備	こどもの森遊び 体育館遊び (遊具サーキット)			野外炊飯 ホットサンド&スープ作り	終わりの会											

○参加者内訳

対象	未就学児	小学生	保護者	計
男	2	6	5	13
女	0	5	5	10
合計	2	11	10	23
家族数				6



○研修トピックス

「こどもの森探検～探検をしながら森の素材を見つけよう」

桜の聖母短期大学の庄子圭吾氏を講師としてお迎えし、参加した家族と一緒にこどもの森を探検した。庄子氏が制作したオリジナルビンゴカード（磐梯 ver）を使って、落ち葉やキノコなどを触った感触や見た感じなど秋の森の中を観察した。参加した家族は、アケビや松ぼっくり、ドングリなどの感触、秋空と紅葉した落ち葉のコントラストなどをビンゴカードと照らし合わせて観察しながら、木（キ）ホルダー作りの素材を採集した。またこどもの森のタイヤや切り株でできたコースで身体のバランスをとりながら遊ぶ姿が多く見られた。

「創作活動 ～木（キ）ホルダー作り～」

家族で協力して丸太の輪切りに挑戦した。各家族に配られたのこぎりで太さ5cm位の丸太を切断した。保護者が手や体で体重をかけて丸太を固定して、子どもたちはのこぎりで輪切りにした。輪切りにした木片を手にとると誇らしげな表情で達成感を言葉で表した。その木片に指導者が穴をあけ紐を通した後、子どもたちは森探検で見つけてきた松ぼっくりやドングリを、ボランティアスタッフに手伝ってもらいながらグルーガンで取り付けて、オリジナルの木（キ）ホルダーを完成させた。

「子育てカフェ」

夫婦で参加された方も別のグループに分かれ焚火の映像を見ながら、「自然体験」というテーマで子育てについての話題を共有していった。親子共々仕事や習い事で忙しい時間を過ごしている中で体験活動の不足、夫婦間の自然体験に対する考え方の相違など、多岐にわたる話題が出た。

「ホットサンド」

家族毎にかまどに焚火を起すことができた。全ての家族の着火はスムーズであった。焚火と調理の時間が十分確保されており、時間をかけながら調理することができた。ホットサンドの用具の取扱いも調理するパンや具材をはさむだけと容易であったので、未就学児でも自分自身で調理し、食事することができた。

○成果と課題

<成果>

○ コロナ収束後の教育活動の開催という面でも、参加した家族は自然体験活動の有用性を実感していた。また家族毎に協力して活動を進めた創作活動や調理活動については各家族とも満足度は高かった。豊かな感情や好奇心、思考力を培うとともに、自然の中で体を動かす楽しさを味わえた事業となった。

<課題>

○ 親子参加型の教育事業を望む声もあり、保護者の自然体験不足解消に向け体験活動への垣根を低くする事業の構築も必要かと感じた。

(10)子どもゆめ基金20周年記念事業「ふれんどキャンプ（防災編）」

【期 日】 令和4年1月15日(土)～16日(日)

【参加者】 福島県内の小学校4～6年生



○事業趣旨

ゲーム性のある防災学習を題材に協力・信頼の大切さを知る。また、協力して課題を解決する経験を通して自己肯定感とコミュニケーション能力の向上を図る。

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
1月15日(土)	晴天 荒天							受付	開会式・自己紹介 防災カードゲーム① 「ナマズの学校」	防災カードゲーム② 「シャッフル」	防災練習① ・応急手当 ・紙皿づくり	防災練習② ・ロープワーク ・救助練習 (毛布担架)	夕食	シャッフルカードゲーム + 大会練習	ミーティング 入浴	就寝準備など	就寝	
1月16日(日)	晴天 荒天	起床・準備	朝の体操	朝食	荷物整理・清掃	部屋点検	防災大会 ①シャッフル大会 ②製作物競争 ③応急手当競争 ④ロープ救助 ⑤毛布担架	閉会式(表彰)	屋食									

○期日・参加者・内容・概要

期日：令和4年1月15日(土)～16日(日) 1泊2日

内容：○防災紙芝居ゲーム ○防災カードゲーム ○応急手当 ○紙皿工作 ○ロープワーク ○毛布担架

概要：福島県内の小学4～6年生を対象に活動した。防災活動を題材にコミュニケーションの場や協力する場面を多く設定した事業である。1日目は防災に関する知識をカードゲームを用いて獲得し、応急手当やロープワークを教えていただいた。学んだ内容を実践して技能の獲得を目指した。2日目には2チームにグループ編成し、防災大会を実施した。参加者が獲得した技能を競い合う白熱した姿が多く見られた。

○成果と課題

<成果>

事業の導入時に防災に関する紙芝居ゲームやカードゲームを行うことで防災に関する知識や意欲、仲間の意見を聞くなどの場面が生まれ、参加者が意欲的に防災について学習するとともにコミュニケーションを深めることができた。ゲームで学んだ内容を実践することで見通しを持って活動し、技能の定着もスムーズであった。

また、2日目に防災大会を実施することで1日目の自由時間にも積極的に防災にかかわる練習に取り組んでいた。すべての種目でチーム戦だったために、友人にアドバイスをしあったり、声を掛け合ったりするなど協力する姿が多く見られた。

本事業を通して「できることが増えた」、「友達を助けることができた」、「友達と協力して課題を達成できた」などの成功体験から自己肯定感の向上やコミュニケーション能力の高まりに関する言葉も多く聞くことができた。

<課題>

全ての参加者が意欲的に活動をしていたが、参加者が6名だったため、防災大会を2チームで実施することになった。1日目の活動班で競ったため「協力して課題を解決」というねらいよりも「勝ちたい」という気持ちが強くなった参加者が見受けられた。1日目に参加者の性格や特性を把握してチームを編成し直したり、スタッフがチームに入りチーム数を増やしたりするなどの工夫が必要であったと感じた。

(11)体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト「ばんだいアグレッシブ・キャンプ」

【期 日】 令和3年10月9日(土)、10日(日)

【参加者】 福島県内の小学校4～6年生



○事業趣旨

自然の中でカヌーやサイクリング等の身体運動を行うことで体を動かすことの楽しさや充実感を味わわせ、運動習慣形成の端緒とすることを旨とする。また、2人乗りカヌーやアウトドアクッキングなどで協力する自然体験活動を通して、課題解決能力やコミュニケーション力、豊かな人間性などの「生きる力」を育む。

		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
10月9日 (土)	晴天 雨天					受付 移動	開 会 式	カヌー 体 験	昼 食	移 動 ・ 準 備	サイクリング	移 動 ・ 準 備	入 浴	ア ウ ト ド ア ク ッ キ ン グ	天 体 講 話	ミ ー テ ィ ン グ	就 寝 準 備		就 寝
10月10日 (日)	晴天 雨天	起 床 ・ 準 備	ラ ジ オ 体 操	ク ア ッ キ ン グ	準 備	カヌー体験		準 備	昼 食	閉 会 式									

○期日・参加者・内容・概要

期日：令和3年10月9日(土)～10日(日) 1泊2日

内容：○カヌー ○サイクリング ○アウトドアクッキング ○天体講話

概要： 本事業はカヌーとサイクリングを中心に運動量を確保しつつ、コミュニケーションの場を多く設定したキャンプである。カヌーは二人乗りを使用して力を合わせる場面を設定した。晴天時は湖上天体観測を予定したが、天候により天体講話となった。

初日は主としてカヌーとサイクリングでの活動であった。アウトドアクッキングではバーベキューと焼きマッシュマロを行った。2日目は湖畔でのラジオ体操に始まり、ホットサンド作り、カヌーでの探検を行った。2日間を通して、会話を弾ませるなどコミュニケーションをとる場面を多く設定した。

○成果と課題○

<成果>

『体を動かすことが楽しい』という意見を半数以上の参加者から得ることができた。特にカヌーに関しては全員が『漕ぐことができるようになった』、『上達した』、『楽しかった』と答えていた。全ての参加者がキャンプを終えて『日常生活に戻っても体を動かしたい』と回答していたため、運動習慣の形成に肯定的にかかわることができたと感じている。運動量が多い活動で参加者によっては苦しいと感じた場面もあったが、『乗り越えることができた』、『自分に自信がついた』と達成感を得ていた。また、『友達ができた』、『友達と協力することができた』との意見も多かったため、目的に対して成果を得られた事業となった。

<課題>

水のプログラムでカヌー、陸のプログラムでサイクリングを行ったため、安全面の確保が重要な課題であった。緊急時を想定したスタッフの人員配置と確保、活動範囲で管理できるような参加者の人数制限を行うことが必要になるため、一度に大人数を対象とする募集が困難であった。また、参加者の技能によって安全面だけではなくプログラムの進行に大きくかわるため、今後は事前の技能確認も必要に応じて実施する。

(12)令和3年度会津・山形「体験の風をおこそう」運動推進事業「あらうんどキャンプ」

【期 日】 令和4年1月8日(土)～1月10日(月)

【参加者】 福島県山形県の小学4年生～6年生

○協力

福島県会津自然の家 山形県飯豊少年自然の家

○事業趣旨

福島県会津地域及び山形県置賜地域の国立及び県立施設が連携し、地域の子供たちに冬の体験活動の機会を提供することにより、子供たちの運動不足問題の解決につなげるとともに、各施設の魅力を広く発信する。

○活動日程

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1月8日 (土)							受付 昼食	開会式 チームビルディング	会津プログラム① スノーシュー体験		ベッドメイク 休憩	夕食	会津プログラム② 会津の昔話		入浴		就寝
1月9日 (日)	起床 泊室 洗面 清掃	朝食	荷物 まとめ	泊室 点検	会津プログラム③ 雪玉ストラックアウト そり・チューブ滑り	着替え	昼食	退所式	山形県飯豊少年自然の家に移動	入所式	飯豊プログラム① 雪灯籠作り	夕食	休憩 ベッドメイク	飯豊プログラム② 雪灯籠作り キャンプ プログラム②	入浴	飯豊プログラム③ 焼き マッシュ マロ	就寝
1月10日 (月)	起床 泊室 洗面 清掃	朝食	荷物 まとめ	泊室 点検	飯豊プログラム④ スノーハイク 雪上かるた	着替え	昼食	閉会式									

○参加者内訳

対象	福島県	山形県	計
男子	6	5	11
女子	5	6	11
合計	11	11	22



概要

福島県・山形県の小学4年生から6年生を対象に、前半を福島県会津自然の家、後半を山形県飯豊少年自然の家を会場に事業を展開した。運営については、各自然の家職員の多大なる協力・指導のもと、各施設の特徴的な体験プログラムを提供していただいた。今年は積雪も十分にあり、天候も良好であったため、野外活動も非常に良好な条件で体験ができた。

○トピックス

「会津プログラム①スノーシュー体験」

福島県会津自然の家の研修指導員によるスノーシューハイキング及び自然観察を実施した。子供たちはスノーシューを使用して雪深いフィールドを散策しながら、研修指導員から冬の特徴や越冬する生物などについて学んだ。ハイキング後は研修指導員による自然の特質についての講義を聞き、スノーシューで自然観察する体験を振り返りながらより深い学びにつなげた。



「会津プログラム②会津の昔話」

このプログラムでは、研修指導員の語り部による様々な昔話や手遊びを通して、会津の歴史や文化、特産品等の由来などについて楽しく学ぶ時間となった。語り部の方は笑い話、怖い話、考えさせる話、伝説をわかりやすく伝える話など、バリエーション豊かな話を巧みな話術で展開し、子供たちは時間を忘れ食い入るように話を聞いていた。



「会津プログラム③雪玉ストラックアウト、そり・チューブ滑り」

雪玉ストラックアウトでは、参加者は思い切りの向かって雪玉を投げ楽しんでた。山形の子供たちは会津の雪の質がいつも接しているものと少し違うことを感じとっていた。そり・チューブ滑りでは、子供たちは歓声をあげながら何度も何度も滑走し、フィールドには笑顔があふれていた。



「飯豊プログラム①雪灯籠（とうろう）作り プログラム③キャンドルサービス」

参加者は飯豊少年自然の家職員の指導のもと、雪を固め、ヘラを使いながら丁寧に灯籠を仕上げた。会津の子供は山形の子供同様、雪質の違いに気づき、手触りや硬さなど確かめていた。

夜には完成した灯籠に各自ろうそくで明かりを灯し、暖かな輝きに見入りつつ、他の参加者の作品を見ながら飯豊の幻想的な夜を楽しんだ。



「飯豊プログラム④焼きマシュマロ体験」

子供たちはマシュマロを自分で焼いて食べながら、これまでの活動のふりかえりや自分が住んでいる地域の話、学校のことなどを思い思いに語り合い、楽しく交流を深めていた。



「飯豊プログラム⑤スノーハイクと雪上レクリエーション」

飯豊少年自然の家職員の指導のもと、展望台を目指してスノーハイクを実施した。深い雪に足を取られながらも一歩一歩少しずつ歩を進め、全員が目的地に到着できた。展望台では、飯豊山、磐梯山、蔵王山など福島・山形を代表する山々を確認することができ、子供たちは景色を楽しむとともに、大きな声で山に呼びかけ、冬の山々に響き渡るやまびこに感動していた。

下山途中、雪上レクリエーションの雪上かるたプログラムを行った。子供たちは新雪のパウダースノーの雪原を全力で走り、かるためがけて思い切り飛び込み、全身で飯豊の雪を楽しんでいた。



○成果と課題

＜成果＞

- 参加した子供たちは、活動をとおして、地域間交流を深め、福島・山形各地域の自然の特徴や歴史文化などについて深い学びを提供することができた。
- プログラム間の自由時間・休憩時間を長めに設定したことにより、子供たち同士で自由に遊び、交流する姿がみられ、プログラム以外の生活時間を通して交流を深めることができた。また、生活の中においては、進んでゴミの分別を手伝うなど自主的に協力して行動する姿勢がみられた。
- 参加者からは、「雪遊びが楽しかった」「色々な人と友達になれた」「楽しみにしていた昔話が聞けて良かった」「冬の山の景色がキレイだった」など好評を得た。



＜課題＞

- 今回は豊富な積雪に恵まれ、参加者に上質な雪上体験を提供することができたが、積雪が見込めなかった場合の代替プログラムがかなり限定的な内容となっていた。冬季プログラムは積雪状況によって大きく内容が左右されるため、十分な積雪が見込めない状況下でも楽しく効果的な代替プログラムを準備しておく必要がある。今後、同様の事業を実施する際は、事前に連携施設と綿密な調整等を行いたい。

(13)令和3年度会津・山形「体験の風を起こそう」運動推進事業「第5回いなわしろフェスティバル 春」

【期 日】 令和3年6月5日(土)～6月6日(日) 【参加者】 家族、地域一般 宿泊(5日)83名 日帰り(6日)483名

○共催○ NPO法人猪苗代研究所(いなラボ)

○後援○ 猪苗代町教育委員会 磐梯町教育委員会
北塩原村教育委員会

○事業背景○

感染症流行禍にあつて、子供たちの体験の場が減少していることを受け、子供たちへの体験活動の提供及び事業を通じ地域の教育力を高めるため、「いなわしろフェスティバル春」を実施した。

○目的○

子供たちやその保護者等に体験の楽しさを伝えるとともに、「体験の風をおこそう」運動を広めるため、関係機関・団体と協力して、ご家族が楽しく遊び、様々な体験ができる機会を提供する。

○概要○

6月5日(土)～6月6日(日)の2日間にわたり実施した。5日は宿泊参加者を対象にしたナイトプログラム、6日は、地域の団体等の御協力をいただき、当所敷地内に様々な体験ブースや飲食ブースを設営し参加者に多種多様な体験プログラムを提供するとともに、陸上自衛隊福島駐屯地音楽隊や地元の青少年のダンスサークル、和太鼓チームの演奏・発表をいただいた。

また、コロナ禍でも安全で充実した体験活動を提供するために、新しい生活様式・感染予防対策を取り入れた運営を行った。

○感染予防対策○

- ① 参加対象を、原則、福島県民に限定した。
- ② 参加者には当施設の新型コロナウイルス感染症に関するガイドラインを一読いただき承諾を得るとともに、宿泊参加者には夜・朝の定時検温を実施して体調の把握に努めた。
- ③ 5日の宿泊参加者用プログラムではあそびリンピックプログラムを実施したが、通常、体育館等1か所に集まってプログラムを提供するところ、各種目を館内の研修室に分けて配置し、「あそびリンピックオリエンテーリング」という形でプログラムを運営し、密な状況を極力つくらないよう配慮した。
- ④ 6日のメインプログラムにおいては、一般入場者用に受付を設営し、検温・名簿記載(追跡調査用)を行うとともに、ブース出展スタッフ全員の検温を行い、異常がない参加者・スタッフにはリストバンドを装着させ、体調異常がないことの「見える化」を図った。
- ⑤ ブース出展者に手指消毒・スプレー消毒・フェイスシールドを配布し、活用いただくことで感染予防の徹底を図った。
- ⑥ ステージ発表時、出演者と観覧者に十分な距離をあげ、飛沫による感染が発生しないように配慮した。

○ブース内容○

「体験ブース」

- 森のスライダー
- スナックゴルフ
- 磐梯山ジオラマ作り
- ペットボトルロケット体験
- 森のスプレー作り
- 動物ふれあい体験
- 缶バッジ作り体験
- あそびリンピック
 - 手裏剣ストラックアウト
 - しゃぼん玉遊び体験
- 薪割り体験・精油作り体験



- 科学工作体験
- おさかな展示
- こけしお面絵付け体験
- ニュースポーツ体験

「ステージ発表」

- 陸上自衛隊福島駐屯地音楽隊によるオープニング演奏
- D-BROTHERS によるヒップホップダンスの発表
- 和太鼓「山照らす」の発表及び和太鼓演奏体験

「その他」

- わたがし作り体験
- 野点体験
- 地元警察署による PR ブース
- 地元消防署による PR ブース
- 飲食販売ブース



○協力団体○（順不同）

株式会社リオン・ドールコーポレーション・NPO 法人猪苗代研究所・猪苗代警察署・猪苗代消防署・ボーイスカウト猪苗代第1団・磐梯山ジオパーク協議会・福島県レクリエーション協会・アクアマリンいなわしろカワセミ水族館・磐梯高原南ヶ丘牧場・和太鼓山照らす・D-BROTHERS・郡山市ふれあい科学館スペースパーク・茶道裏千家熊倉宗久社中・吉田ベーカリー・陸上自衛隊福島駐屯地広報業務室・NPO 法人グリーンエネルギーユーズ・福島県内水面水産試験場・コンパスグループ・ジャパン株式会社・福島県郡山自然の家・福島県会津自然の家・山形県飯豊少年自然の家・さいたま市立舘岩少年自然の家・国立花山青少年自然の家・国立那須甲子青少年自然の家

○事業評価○

新型コロナウイルス感染拡大が懸念され、地域の様々なイベントが中止となっている中、当事業の実行委員会では、事業を中止とすることは簡単ではあるが、コロナ禍において、子供たちの体験活動の機会が減少している今だからこそ、何とか工夫して事業を運営できないか実施の可否や運営内容などについて議論・検討を重ねてきた。

開催予定日前に、県の緊急対策期間が解除され、感染予防対策を徹底することで本事業の実施を決定し、大きな事故や感染者の発生もなく事業が実施できた。

ブース等の出展については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から辞退された団体もいらっしゃったなかでも、多くの団体にご協力いただき、参加者にバリエーション豊かな楽しい体験プログラムを提供することができた。

参加者からは、「コロナ禍で様々なイベントが中止になっていた中で、久しぶりに子供をたくさん遊ばせることができた」「感染症対策や密を作らない工夫が見て取れて安心して活動できた」、出展者からも「久しぶりにイベントを通してPRができた」等のお声をいただき、コロナ禍対策を施した事業運営に好評を得ることができた。

今回の事業運営で試行した感染予防対策を踏まえた事業運営方法、及び反省点を職員間で共有するとともにノウハウをブラッシュアップし、今後のコロナ禍における安全な事業運営に活かしていきたい。

(14)国立磐梯青少年交流の家教育事業「日本の正月文化を楽しもう！」

【期 日】 令和3年12月18日(土) 【参加者】 小中学校の児童生徒 及び 指導者

○事業趣旨

- ・ 書初めや昔遊びに挑戦したり、正月料理を味わったりすることで、日本の伝統文化に親しめるようにする。
- ・ 「福島県書初め展」の課題を練習することにより、文字を整えて書く力を育成する。
- ・ 有名校書道部等の書道パフォーマンスを鑑賞することを通して、書道の素晴らしさを味わう。



○期日・参加人数・内容

- ＜事業名＞日本の正月文化を楽しもう！
- ＜実施日＞令和3年12月18日(土) 日帰り
- ＜連携機関＞福島県書写書道研究会・福島県立会津学鳳高等学校(書道部)
- ＜参加人数＞12名(小学生8名、指導者等4名)
- ＜主な内容＞福島県書初め展の課題練習(書写)、書道パフォーマンス鑑賞
正月料理の試食、正月文化の体験(しめ飾り作り)

○研修トピックス

「書初め練習」

福島県書道研究会の方々に指導をいただきながら、書写の技能向上を図ることができた。めきめきと技能を向上させ、書初め展の清書を終える児童の姿も見られた。

「書道パフォーマンス」

県立会津学鳳高等学校書道部の皆さまから「書道パフォーマンス」を披露いただき、書道の素晴らしさを実感することができた。参加者もパフォーマンスに参加でき、紙面に自分の想いを表現できた。感動で目を潤ませる児童も見られた。

「正月飾り作り」

正月文化の体験ということで、しめ飾り作りを行った。参加者は、稲わらから、しめ縄ができることが分かり、日本の伝統的な手仕事を体験することができた。完成品を持ち帰ってもらったことで、家庭にも日本文化の素晴らしさを伝えることができた。

○成果と課題

＜成果＞

- 福島県書写書道研究会の協力を得たことで、専門的に書初め展の課題に取り組むことができた。冬休みの課題で取り組む学校も多いので、書写練習の機会を提供できた。
- 会津学鳳高等学校書道部の協力により、体育館で迫力のある書道パフォーマンスを実施することができた。鑑賞した参加者からは、「1つの作品が出来上がる様子に、とても感動した。」「生で鑑賞したら、改めて書道がカッコいいと感じた。」等の声が聞かれた。
- 正月料理については、食堂の協力により、お雑煮やおせち料理等の正月文化を感じさせる料理を味わうことができた。会津の伝統料理を口にすることができた。

＜課題＞

- 参加者が少なかつたため、広報の仕方について再考する必要がある。計画的に、会津若松市・磐梯町・猪苗代町の小中学校へは広報に行っていたが、西会津町や喜多方市・会津坂下町方面への配付もしていった方がよいと感じた。
- 実施時期について、参加者しやすい時期を検討する必要がある。また、目玉となるイベントを全面に出したチラシの作成も有効と考える。
- 次年度から、本部で本格実施の事業になるので、他施設の先行事例と当所の独自性を生かした内容となるようにしたい。

3 青少年教育指導者等の養成・研修事業

(1)自然体験活動指導者養成事業 「NEAL リーダー養成講習会」

【期 日】 令和3年10月9日(土)～11日(月) 【参加者】 学生・一般 11名

○事業趣旨

自然体験の特定の活動プログラムを指導する自然体験活動指導者（リーダー）を養成する。

○参加者内訳

対 象	男	女	計
学 生	3	0	3
社会人	6	2	8
合 計	9	2	11

○事業日程

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
10月9日 (土)					受付 ガイダンス	自然体験活動の技術Ⅰ	昼食	対象者理解			自然体験活動の安全管理		夕食	入浴			
10月10日 (日)		起床	朝食		自然体験活動の技術Ⅱ	自然体験活動の技術Ⅲ ～野外炊飯～					自然体験活動の特質		夕食	自然体験活動の技術Ⅳ	入浴		
10月11日 (月)		起床	朝食	点検清掃	青少年教育における体験活動	自然体験活動の指導	昼食	試験	ガイダンス	解散							

○研修内容○

「自然体験活動の技術Ⅰ」講師 増田 直人 先生（千葉県教育庁東葛飾教育事務所社会教育主事）

自然体験プログラムを実施する最初の段階として、参加者の緊張をほぐし参加者の仲間意識を育む「アイスブレイク」の実演を中心に講義・演習を行った。約20種類のアクティビティ実習を通して、受講者は、参加者同士が活発にコミュニケーションをとることの大切さを学ぶことができ、「スムーズに交流できるように教えていただき理解しやすかった」「アイスブレイクのアイデアが浮かばなかったのが、様々なアクティビティを体験して大変参考になった」など好評を得た。

「対象者理解」講師 増田 直人 先生（千葉県教育庁東葛飾教育事務所社会教育主事）

参加者が安全で安心できる環境の中で活動等を行うためには、活動の参加者（対象者）を正しく理解することが必要である。本講義では、対象者を理解するための情報収集の大切さや、対象者の相談等を「受容」「傾聴」「共感」してカウンセリングする必要性、対象者への配慮、各年齢期の特徴、ネガティブな考えをポジティブな考えに変換する「リフレーミング」等について学び、受講者からは、「参加者が10人いれば10通りの価値観があることを理解した」「一人ひとりの考え方が違うので配慮を持って指導することの大切さを知った」などの深い学びにつながった。



「自然体験活動の安全管理」講師 中村 正雄 先生（大東文化大学教授）

3時間の講義時間を「安全管理」「リスクマネジメント」「救急救命実習」3つのテーマに分けて講義を行った。「安全管理」では「安全とは何か」「安全と危険（チャレンジ）のバランス」「安全対策とは」など、基本的な考え方や定義について学び、「リスクマネジメント」ではグループに分かれ、活動中に発生した事故・アクシデントの例題から、どのような行動をとるかを討議し、意見を交換した。「救急救命実習」では心停止者発見からAED対応までの流れを実習した。受講者からは「安全と危険（チャレンジ）のバランスでは危険を意識しすぎると活動の楽しさやワクワク感が制限されることなどを知ることができ、深い学びにつながった」「説明が非常にわかりやすかった。事前にリスクを洗い出すことや変化する状況を受けてどのように判断するかが重要であると感じた」など好評を得た。



「自然体験活動の技術Ⅱ」講師 中野 充 先生（新潟青陵大学准教授）

自然体験活動を計画する際に必要な「アクティビティ」と「プログラム」の関係性など、プログラム構成の基本的事項を学び、また、講師が開発した様々な体験活動スキルを磨ける「野外力検定」から生き抜く力を育むために必要な知識や技術を学びながら、実際にロープワーク実習を体験した。受講者からは、「キャンプ等の体験活動に必要な技術や知識を知ることができた」「バリエーション豊かなロープの結び方を身につければ様々な活動に活用できると感じた」など、自身のスキルアップに前向きな意見が多くみられた。



「自然体験活動の技術Ⅲ」講師 直江春香 飯山和也（国立磐梯青少年交流の家職員）

自然体験プログラムで「生活」「体験」の2つの要素を兼ねる野外炊飯プログラムについて実習を行った。当演習では、野外炊飯の「役割」「目的」「特徴」「用具」「安全管理」の基本事項を学び、実習ではダッチオーブンを使ったパエリア作りとスープ作りを行った。受講者からは「役割分担を明確にすると円滑に調理できることを体感できた」「ダッチオーブンの汎用性を知ることができた」「メニュー選びにもねらいがあることを知ることができた」など好評を得た。



「自然体験活動の特質」講師 菅原 遊 先生（フリーランス）

自然体験自然体験活動を行う上で、活動するフィールドの自然環境やフィールドに生息する動植物等の性質を把握し、その特性を活用した活動を実施することが重要である。当演習では、野外に出て、「葉っぱじゃんけん」「わけてみよう」「色探し」などのプログラムを実施し、受講者は磐梯の自然や、季節、気候を五感で感じた。受講者からは、「葉1枚をとっていても様々な特徴や特質があり、自然の奥深さを感じた」「フィールドの特質を踏まえたプログラムは観察力や感性が育めることを知った」などの気づきを得ることの評価が多くみられた。



「自然体験活動の技術Ⅳ」講師 菅原 遊 先生（フリーランス）

自然体験活動の特質を踏まえ、「夜」の自然体験で得られることをテーマに演習を実施した。演習では、ナイトハイクプログラムを実践し、ロウソクランタンを使用して夜の暗さに眼が慣れていく人体の適応力を感じるプログラムや、星空を静かにゆっくり眺める時間、夜の闇の中で風や匂いを感じるプログラムなど、夜だからこそ体感できる体験を学んだ。受講者からは「昼間とは違うドキドキワクワク感を感じることができ、安全の配慮のしかたも勉強になった」「視覚が制限されるからこそ他の感性を磨くことができることを知った」など、新たな発見ができた感想が多かった。



「青少年教育における体験活動」講師 福士 寛樹（国立磐梯青少年交流の家所長）

現代の子どもを取り巻く問題等の背景を知り、なぜ体験活動が必要か、体験から得られる効果、「生きる力」を育むには何が必要なのかなど、青少年教育の必要性・重要性を、行政の指針、家庭教育、学校教育、社会教育などあらゆる角度からアプローチしつつ、講師のこれまでの指導経験談をからめながら説明した。受講者からは「体験活動を指導する立場の人間として、重大な責務を背負っていると改めて実感した」「学習指導要領や様々な実態調査の検証データから、社会教育や自然体験活動がいかに必要かその意義を知ることができた」「道徳観や正義感を持った人となるためには少年期の体験活動が大切であることを理解した。そのためにも大人が積極的に子どもたちへ体験活動を提供することが必要である」など、指導者としての使命感に気づき、目的を明確にできたという感想が多くみられた。



「自然体験活動の指導」講師 齋藤 央頭（国立磐梯青少年交流の家職員）

自然体験活動において子どもたちを指導する立場にある人間に求められるものは何か？をテーマに、講義前半では、指導者に求められる能力と資質、心構えについて、講師の経験談や実際に起こった事例もからめながら説明した。後半では、様々な事例をどのように対応していくのが適切であるかグループ討議を行い、適切な判断、対応とは何かを考える時間となった。受講者からは「指導者に求められる能力について説明がわかりやすかった。コミュニケーションでは立ち位置が重要であることを知ることができた」「学び続ける指導者でありたいと思った」「求められる能力として資質・ソフトスキル・ハードスキルの3つがあったが特にハードスキルについてはOJTを通じ自発的に自身を研鑽していきたい」など新たなきづきや今後の自己研鑽への目標となったなど前向きにとらえる感想が多くみられた。



○成果と課題○

＜成果＞

- 新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いた時期に実施できたため、青森から埼玉まで幅広い地域からの受講生を受け入れることができた。また、学生から行政職、青少年教育施設職員など、幅広い年齢層の参加者に参加いただいた。参加者の中には指導歴が全くない人の参加もあり、自然体験活動指導者の裾野を広げることができた。
- 昨年度の課題であった講師人材の発掘に対し、1名新たな講師を加えたことにより、よりバリエーションのある講義・演習を展開することができ、コロナ禍においても申し込みいただいた受講者の皆様に深い学びを提供することができた。
- 国立那須甲子青少年自然の家職員古谷氏に主任講師を務めていただき、各カリキュラムの導入と要点の振り返りを実施いただいたことにより、受講者により効果的な学びと意識づけを提供できた。



＜課題＞

- 一部講義でも触れていただいた内容もあったが、時代背景やニーズに応える研修を運営するために、コロナ禍における自然体験活動や安全管理を深掘りする内容を提案してもよかったのではないかな。
- 広報対象を昨年度同様に絞り広報をかけたが、他に自然体験活動指導者を志す団体や人に広報をかけることができたのではないかな。次年度は広報対象をさらに広げていきたい。
- 受講者の指導経験等を事前に把握し、指導経験が浅い・ない受講者がいる場合は、さらに基本的な事項についてカリキュラムを組むなど、受講者のレベルにあった日程の構築が必要である。

(2) ボランティア養成・研修事業「ボランティアセミナー」

【期 日】 令和3年5月8日(土)～9日(日) 【参加者】 高校生19名 大学生16名 社会人 2名 計37名



○事業趣旨

「ボランティア養成共通カリキュラム」に準拠したプログラムを実施することにより、教育事業や研修支援等の運営協力・指導補助などを担うことのできるボランティアを育成する。

○参加者内訳

対象	男	女	計
高校生	1	18	19
大学生	6	10	16
社会人	1	1	2
合計	8	29	37

○活動日程

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22			
5/8 (土)						受付	開会式	アイスブレイク	荷物移動 発表	青少年教育について知ろう!	休憩	青少年教育施設ってどんなところ?	休憩	安全管理	野外炊飯		休憩	ナイトハイク	入浴	就寝
5/9 (日)	起床 清掃	つどい	朝食	荷物移動 部屋点検	安全管理	休憩	法人ボランティアの制度について	昼食	登壇のボランティア活動	休憩	ボランティア活動の意義	閉会式	□…講義 □…演習 □…説明							

○研修トピックス

「青少年教育について知ろう！」

青少年教育や体験活動についての定義や目的、その教育効果について、講義を行った。学校教育と社会教育の違いや、体験活動の意義などについてを、参加者自身の体験活動の経験をもとに考え、理解を深めた。

「安全管理・野外炊飯」

野外活動をする上での安全管理について学んだ後に、ダッジオーブンを使用して、無水カレー作りを行った。ボランティアとして子供たちと安全に野外炊飯をするためにはどのような視点が必要かを意識しながら、参加者同士協力してカレーを作る姿が見られた。

「ナイトハイク」

フリーランスの菅原遊氏を講師に迎え、ナイトハイクを行った。暗い森の中で、嗅覚や触覚、聴覚を研ぎ澄ます活動や、動物の痕跡を見つける活動を通して、多くの自然に触れ、参加者からは「新しい発見がたくさんあった」「普段聞かない音がたくさんあった」などの声があがった。

「磐梯のボランティア活動」

昨年度以前より当施設でボランティア活動を行っている法人ボランティア 3 名から、ボランティア活動を始めたきっかけや活動を通して学んだことなどの具体的な体験談を話していただき、参加者はボランティア活動についてのイメージをもつことができた。



○成果と課題

<成果>

- 先輩ボランティアから、ボランティア活動についての体験談や活動を通して学んだことを聞き、参加者はボランティア活動について具体的なイメージをもち、今後のボランティア活動参加への意欲を高めることができた。
- 日本赤十字社福島県支部青少年赤十字(JRC)に協力いただき、福島県内の高等学校に広報を行った結果、過去の参加実績がない高等学校より18名の参加があり、法人ボランティア登録者の新規開拓につながった。

<課題>

- 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、参加者は福島県内からの参加のみとなった。来年度は、例年参加していた県外の大学への広報を重点的に行い、今年度以上に法人ボランティアの登録者数拡大に努める。

(3) ボランティア研修・自主企画事業 「ボランティア・スキルアップ」

【期 日】 令和3年6月～10月(計3回) 【参加者】 自主企画担当ボランティア 大学生3名

○事業趣旨

ボランティア育成ビジョンの中期ビジョンにある育成プログラムに基づき、法人ボランティアのスキルアップを図るための研修の機会とする。また、ボランティアの社会参画を促すために、ボランティア自身が主体的に企画・運営をする自主企画事業も実施する。

○活動内容

▶第1回【ボランティア自主企画 立案】

日程	令和3年6月26日(土)～27日(日)
参加者	自主企画担当ボランティア 大学生3名
内容	<p>学生が教育事業の企画を行うにあたり、まず当施設の企画指導専門職による事業の企画方法についての講義を受け、ねらいの立て方やプログラムの選び方等を学んだ。その上で、事業に参加する子供達にどのような姿になって欲しいか、その姿になるためにはどのようなプログラムが良いか検討会議を行い、10月に「ばんだいオータムキャンプ」を開催することを決定した。</p> <p>また、自主企画事業に向けた話し合いだけでなく、野外炊飯やたき火を囲んでの交流を行い、自主企画担当ボランティア同士の親睦を深めた。</p>



▶第2回【ボランティア自主企画 実地踏査】

日程	令和3年9月25日(土)～26日(日)
参加者	自主企画担当ボランティア 大学生3名
内容	<p>「ばんだいオータムキャンプ」で実際に行うプログラムを自主企画担当ボランティアで実際に行い、事業当日の安全管理やスムーズな運営方法について話し合った。また、野外炊飯を行う中で、適宜包丁の使い方や火の付け方を撮影し、分かりやすく子供たちに教えるための資料作成を行った。</p>



▶第3回【ボランティア自主企画 企画事業当日 (ばんだいオータムキャンプ)】

日程	令和3年10月23日(土)～24日(日)
参加者	自主企画担当ボランティア 大学生3名 当日ボランティア 大学生3名、社会人2名 自主企画事業参加者 小学生22名
内容	<p>「季節を活かした野外活動を通して、ものづくりをしたり、仲間と協力したりすることで、仲間と自分のそれぞれの良さを見つけることができるようになる」というねらいのもと、1泊2日の事業を実施した。自然体験ゲームやキャンドルホルダーづくり、野外炊飯などのプログラムを行った。</p> <p>また、事業を通じた取り組みとして、スタンプカードを活用し参加者同士で良いところを見つけ合う活動を行った。</p>



○成果と課題

<成果>

- 「ばんだいオータムキャンプ」実施後の参加者アンケートには「お母さんがいなくて寂しかったけど、みんなが励ましてくれて元気が出ました」や「みんなと協力して美味しいご飯を作ることができた」といった仲間に関する感想が数多くあがったことから、自主企画担当ボランティアが設定したねらいを達成することができた。
- 昨年度に引き続き自主企画事業に参加したボランティアの学生は、他のボランティアへのアドバイスも積極的に行うなど、リーダーシップを発揮し、スキルアップに繋げていた。

<課題>

- ボランティアによる自主企画では企画・運営については学ぶことができたが、ボランティア活動の中ですぐに役に立てることができる内容ではなかったため、来年度は安全管理研修や登山研修等、教育事業にボランティアとして参加する際に必要なスキルの向上を目的としたプログラムを検討する。

(4)教員免許状更新講習（選択18時間）「教科指導や学級経営に生かす体験活動の指導」

【期 日】 令和3年8月18日(水)～20日(金)

【参加者】 小・中学校教職員 7名

○事業趣旨

今日の社会的環境、児童の現状、発達段階を踏まえ、体験活動の意義と必要性、教育的効果を理解する。

また、実技等を通して教員に求められるコミュニケーション能力や自然体験活動の指導方法を身につけるとともに、指導力の向上を図る。

○活動日程

日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
17/8																														
18/8																														
19/8																														
20/8																														

○受講者内訳

対象	男性	女性	計
小学校	1	3	4
中学校	2	1	3
高等学校	0	0	0
特別支援学校	0	0	0
合計	3	4	7



日	内容	時間	講師
17/8	開会式「学校実習と体験活動」 学校実習と体験活動の意義と目的について説明する。	1.0	令和3年度教員免許状更新講習 幹事 渡邊
18/8	講演①「教科指導と体験活動」 教科指導の観点から体験活動の意義と目的について説明する。	1.0	新潟県立小・中学校教員 渡邊
18/8	講演②「教科指導と体験活動」 教科指導の観点から体験活動の意義と目的について説明する。	1.0	新潟県立小・中学校教員 渡邊
19/8	実習①「自然散策の実践」 自然散策の実践を通して、自然の良さや注意点を山道の歩き方や安全面での留意点などを具体的に学ぶことができる。	2.0	新潟県立小・中学校教員 渡邊
19/8	実習②「野外炊飯の実践」 野外炊飯の実践を通して、安全管理に重点を置きながら班員と協力してカレー作りに取り組む。	2.0	新潟県立小・中学校教員 渡邊
20/8	閉会式「学校実習と体験活動」 学校実習と体験活動の意義と目的について説明する。	1.0	令和3年度教員免許状更新講習 幹事 渡邊

○活動トピックス

3名の外部講師と所長・研修指導員、企画指導専門職により、表の日程・内容で講義や演習を行った。

各講師からは、五感によるコミュニケーションの大切さや実践事例、体験談を交えた自然体験活動の意義や有用性についてわかりやすく講義していただいた。また、「振り返り」の大切さについても講義していただき、受講者は自校での取り組み方について考えていた。

自然散策の実習では、施設の周辺コースを散策し植物や動物など自然に関する知識、自然の良さや注意点を山道の歩き方や安全面での留意点などを具体的に学ぶことができた。

野外炊飯ではリスクマネジメント演習を行った後、安全管理に重点を置きながら班員と協力してカレー作りに取り組んだ。羽釜でご飯もおいしく炊き上がり、野外で食べるカレーライスを楽しんだ。

体験活動を通した人間関係作りでは、コロナ禍でもできる体を使った楽しいレクリエーションや仲間づくりを意識した実習や講義を通して互いの意見の上手な伝え方などコミュニケーションの取り方を学んだ。受講者からは「学級作りや人間関係作りにすぐに役立たせたい。」「体験活動の重要性を再確認できた。」等の感想があった。

○成果と課題

<成果>

- 体験活動の法的根拠と位置付け、意義や必要性についての理解を深めることができた。実践報告も聞くことができ、体験学習における自校の課題や教育課程などをふまえて振り返ることができた。
- 受講者は、様々な事例から体験活動の意義について詳しく学ぶことができ、自校における教科指導や学級経営に生かす自信につなげることができた。
- 受講者は、自然散策や野外炊飯などの野外活動を実際に体験し、実施の際の留意点や指導法について改めて学ぶよい機会となった。

<課題>

- コロナ禍という影響もあり、受講者が少なかった。広報を早めに行い、学校や教育事務所へ受講案内を直接メールで送るなど、広報に工夫を凝らして受講者を募集していく必要がある。



4 東日本大震災復興支援プロジェクト

「第7期 福島子ども未来塾 第1回」

【期 日】 令和3年6月19日(土)～6月20日(日) 【参加者】 小学5年生～中学1年生

○事業趣旨

- ・ 東日本大震災について学び、ふるさと福島県に貢献する意識を高める。
- ・ 1年間を通して学ぶ仲間と協力しながら取り組む大切さを知る。

○参加者内訳

対 象	男	女	計
小学5年生	11	21	32
小学6年生	11	16	27
中学1年生	6	0	6
合 計	28	37	65



○活動日程

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	
6/19 (土)						東日本大震災原子力伝承館		東日本大震災原子力伝承館				いわき海浜自然の家							
						双葉町産業振興センター		A※ 展示見学	フィールドワーク	語り部	バス移動 途中休憩15分		いわき海浜自然の家到着	荷物移動	夕食	休憩	みんなが楽しく学べるようにするためには	入浴	就寝準備
6/20 (日)	いわき海浜自然の家					リプルン福島		富岡町太田公園											
	起床 部屋清掃	ラジオ体操	朝食	荷物整理	バス移動	体験学習① 体験学習② 展示見学		移動	昼食	閉会式									

○研修トピックス

「東日本大震災・原子力伝承館 ～東日本大震災について学ぶ～」

双葉町内を見学する「フィールドワーク」、東日本大震災発生当初の状況や復興に向けて現在の取り組みなどについて話を聞いた「語り部」、東日本大震災に関する資料を見た「館内見学」を行った。子どもたちは、「お家の人から聞いていたから、なんとなく知っていたことなどがはっきり分かった」、「東日本大震災についてお家に帰れない人がいて悲しい気持ちになった」などの感想をもった。

「ミーティング ～みんなが楽しく学べるようにするためにはどうすればいいか～」

これから全7回の未来塾で「みんなが楽しく学べるようにするためにはどうすればいいか。」をテーマに『自分自身がどうすればいいのか』、『仲間とどう学んでいくか』、について考えた。話し合いの中で友達の考えを認め合いながら、未来塾のめあて・自分自身のめあてとして1年間の目標をたてることができた。

「リプルン福島 ～環境について学び、考えよう～」

放射線測定、いろいろな水のPH測定などを体験し、生活ごみと震災で出たごみの処理の仕方などの違いについて館内見学を通して学んだ。水に薄められたジュースを中和し、魚が住める状態にするには、大変手間がかかることなど、リプルン福島の環境への取り組みに驚く塾生が多かった。

○成果と課題

<成果>

- 塾生は、当時1～3歳であり、東日本大震災時の状況を覚えていない。学校での震災講話を通して震災について学習していた子どももいたが、実際その場に行ってみたり、話を聞いて状況を知ったりすることで子どもたちにとって東日本大震災について関心を持つきっかけになった。
- 新型コロナウイルス感染症対策として、開塾式を2グループの半数程度に分けて実施し、密集せざるをえない状況時には、フェイスシールド着用とマスクの着用などを講しながら、プログラムを実施した。

<課題>

- 福島県内では、新型コロナウイルス感染症の流行の山を越え、何とか実施することができた。今回のプログラムにあたり、新型コロナウイルス感染症対策についてスタッフマニュアルで共通理解を持っていたが、塾生や保護者へも事前に感染症対策について伝え、みんなが安心して参加できる準備も必要であった。

【第7期 福島子ども未来塾 第2回】

【期 日】 令和3年10月9日(土)～10月10日(日)

【参加者】 小学5年生～中学2年生



○事業趣旨

- ・ パラスポーツなどにチャレンジ、楽しさを実感する。
- ・ 様々なスポーツを通して、ルールを守ることや仲間と協力する大切さに気付く。
- ・ チームメイトを応援したり、サポートしたりする喜びを実感する。

○参加者内訳

対象	男	女	計
小学5年生	11	21	32
小学6年生	11	16	27
中学1年生	4	0	4
中学2年生	1	0	1
合計	27	37	64

○活動日程

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	
10/9 (土)						到着 受付	開校式 アイス ブレイク	移動 昼食	休憩 移動	赤・青 カバディ (体育館) 緑・黄色 カバディ (グラウンド)	赤・青 サッカー (グラウンド) 緑・黄色 カバディ (体育館)	移動 昼食	アクティビティ 昼食	移動 夕食	チーム 決め	チア作り	ユニホーム作り	入浴	就寝
10/10 (日)	起床	部屋 清掃	移動 朝食	移動 荷物 整理	準備 移動	赤・青 車いす ラグビー (体育館) 緑・黄色 車いす ラグビー (グラウンド)	移動 移動	赤・青 野球 (グラウンド) 緑・黄色 車いす ラグビー (体育館)	移動 移動	休憩 移動	スポーツ 大会	移動 移動	開校式 開校 発表						

○研修トピックス

「スポーツ ～いろいろなスポーツにチャレンジしよう～」

①サッカー

ドリブルの練習、ボールをコントロールするキックの練習、それを生かしての対一。男女関係なく楽しく取り組んだ。

②カバディ

カバディのルールの説明、逃げ方、捕まえ方等、練習に取り組んだ。難しさを感じながら一生懸命に取り組んだ。

③野球

ボールの投げ方、キャッチボールの仕方を教えてもらい、練習に取り組んだ。後半、チームに分かれ、簡易的なルールでゲームを行った。

④車いすラグビー

車いすの使い方、車いすラグビー競技の説明やパラスポーツについて教えていただいた。実際に車いすに乗ってラグビー体験をした。

「アクティビティ ～農業×スポーツ講義～」

福島美味しい米と野菜を育てている食育指導士の設楽 哲也氏からご講演をいただいた。野菜の育て方や苦労の話を通して、「自分のできることを積み上げていくこと」や「当たり前は当たり前ではない」というメッセージを伝えていただいた。

「グループワーク ～チームで相談し、チアをつくろう！～」

2日目のスポーツ大会に向けて、自分のチームの応援を考えた。考えを友達に伝え、もっと良くなるように話し合った。

「スポーツ大会 ～協力・応援、全力競技～」

サッカーとリレーの2種目を行った。サッカーは自分が出ていない時にチームメイトを一生懸命応援する姿が見られた。スポーツ大会後の振り返りで、自分の気持ちをチームメイトに伝えることができた。

○成果と課題○

<成果>

- 感想カードに、スポーツ大会に向けてのチアの相談、ユニホーム作りなどを通して、交友関係が深まり、協力する大切さなどを感じたという内容の感想を書いた。
- 一流のスポーツ選手に学び、競技に対する考え方と指導者のすごさと種目の楽しさを感じた。

<課題>

- 2日間で4種目のスポーツを体験した。その分、楽しさを感じているところで終了し、「もっとやりたい。」と感じる子が何名かいた。
- チアなどの話し合いで考えがあってもなかなか意見を言えない子の姿があった。

「第7期 福島子ども未来塾 第3回」

【期 日】 令和3年10月23日(土)～10月24日(日)

【参加者】 小学5年生～中学1年生



○事業趣旨

- ・ 東日本大震災について学び、ふるさと福島県に貢献する意識を高める。
- ・ 海洋生物を捕獲する活動を通して、命の大切さを考える。

○参加者内訳

対象	男	女	計
小学5年生	11	19	30
小学6年生	11	14	25
中学1年生	3	0	3
合計	25	23	58

○活動日程

日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	
10/23(土)																									
10/24(日)																									

○研修トピックス

「浪江復興プログラム ～東日本大震災の被害を確認し、復興の取り組みを知る～」

① まちなか探検

浪江駅から道の駅なみえまで歩いた。子どもたちは、歩いてみて、まだ復興の途中であると感じ取っていた。また、商店街のシャッターに絵が描かれている場所を見て、嫌な思い出を楽しい思い出に変える浪江町の方のすごさを感じていた。

② 福島水素エネルギー研究所

施設内を見学した。見学を通して、水素エネルギーのメリット、デメリットがあることを理解していた。また、子どもたちの感想で、「持続可能な社会(SDGs)を目指していることを知り、資源を大切にしよう。」と改めてエネルギーの大切さを実感し内容が見られた。

③ ワークショップ

まちなか探検や福島水素エネルギー研究所の見学を通して、気付いたことや考えたことをグループ内で共有した。そこから、未来について一人一人考え、グループのメンバーと共有しながら自分なりの未来について考えた。未来の自分に向けて、取り組んでいくことがはっきりした子もいた。全体で、グループ内で出た意見を全体で共有する場面では、緊張に負けずにグループで意見をまとめて発表する姿やそれを聞いて自分の考えを積極的に発言する子の姿が見られた。

④ 福島の漁業について

福島の漁業の現状を詳しく教えていただいた。その後、子どもたちが、事前に調べてきた福島の海でとれる魚の絵をそれぞれ描いた。

「相馬市松川浦の海を見よう ～松川浦の海で活動しよう～」

子どもたちは、福島の海について学習したことで、福島の海に愛着を感じることができた。子どもたちは、原釜尾浜海水浴場でのゴミ拾いのボランティア活動に取り組んだ。浜辺2kmをゴミを拾いながら歩き一人一枚のごみ袋いっぱい拾っていた。その後、磯に移り、磯力ニ釣り体験を行った。磯のにおいを感じながら、楽しく体験をすることができた。今まで、カニを触ったことがない子も触ったり、釣ったカニを大切に海に返し命の大切さを感じていた。

昼食後は、松川浦の漁師のお話を聞いたりやイカ焼きを美味しくいただいたりした。

○成果と課題○

<成果>

- 浪江町の方、相馬市松川浦の方に丁寧に教えていただいたり、活動をサポートしてもらったりして充実した体験ができた。感想カードには、福島の良さ、人の温かさ、福島県への愛着を深まったことを書いた子が多かった。

<課題>

- 天候が大変よく、素晴らしい活動ができた。天候不良の場合のプログラムも用意していたが、荒天の場合であっても、子どもたちに響く活動になるよう、考える必要がある。

【第7期 福島こども未来塾 第4回】

【期 日】 令和3年11月6日(土)～11月7日(日)

【参加者】 小学5年生～中学1年生



○事業趣旨

- ・ 心を開いて、表現をする楽しみを学ぶ
- ・ 新しいことにチャレンジする喜びを学ぶ
- ・ チームで一つのことを成し遂げる喜びを知る。

○参加者内訳

対象	男	女	計
小学5年生	9	21	30
小学6年生	11	16	27
中学1年生	4	0	4
合計	24	37	61

○活動日程

日	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	
11月6日																			
11月7日																			

○研修トピックス

「グループワークチャレンジ ～わたしたちのチャレンジ～」

表現について、ゲームを通して楽しく学んだ。最初は、恥ずかしさから消極的な姿が見られたが、ゲームを重ねていくうちにどの子も緊張がほぐれ、楽しく取り組む姿が多く見られた。チームの名前やチームでチャレンジすることなどを話し合い、決定した内容を入れた看板を作成した。時間が少ないなかで協力して取り組む姿が多く見られた。

「Meet & Greet ～HEART GLOBAL に表現の仕方を教わろう～」

「Show」での発表を目指し、表現の仕方を丁寧に教えていただいた。最初は、伝言ゲームなどから始まり、徐々に手拍子の表現、ダンスなどの練習を重ねていった。2日間という短い練習のなか、短時間でマスターしていく姿が素晴らしかった。

「Show ～チームで練習したことを発揮しよう～」

習ったことを組み合わせて、1つの発表作品に仕上げた。保護者の方にも観覧していただいた。チームごとに担当するパート、全員で動きを合わせるパート、前の人の動きに対して、自分も動いていくパートなど、どのパートも練習の成果が現れた素晴らしい発表となった。「Show」を通して、子どもたちの表情、声の大きさ、動きなどどれも始まる前より自信に満ちていた

「私のChallenge 報告&Challenge 宣言 ～今回の経験を生活に生かそう～」

今回のプログラムを通して、「チャレンジできたこと」、「いつもの生活で新たにチャレンジしたいこと」について振り返りを行った。

「チャレンジできたこと」

- ・ やったことのないことでもチャレンジすることで、どんどん興味がわいてくる。

「いつもの生活で新たにチャレンジしたいこと」

- ・ 間違いをこわがらない。 やったことのないこと、できないことでもチャレンジしてみる。
- ・ 学校生活での発表、吹奏楽部（トランペットなど）自分の夢にむかって今まで以上に頑張りたい。

○成果と課題

<成果>

- 振り返りで、一生懸命がんばる人の格好の良さ、練習に取り組むことのすばらしさなどを実感した子が多かった。
- 今回の体験を通して、自信がつき、学校生活でもチャレンジしていきたいという意欲が高まった。

<課題>

- 新型コロナウイルス感染症の影響で2泊3日のプログラムを1泊2日に短縮した。子どもたちのがんばりで成果は現れた。例年通り3日に戻し、余裕を持たせながら子どもたち一人一人が成長を実感できるようにしていきたい。

「第7期 福島こども未来塾 第5回」

【期 日】 令和3年11月20日(土)～11月21日(日)

【参加者】 小学5年生～中学2年生



○事業趣旨

- ・ 東日本大震災から復興を目指す福島県内の企業のSDGsについて学ぶ。
- ・ 再生エネルギーをはじめとする次世代エネルギーについて理解する。

○参加者内訳

対象	男	女	計
小学5年生	10	19	29
小学6年生	8	14	22
中学1年生	4	0	4
中学2年生	1	0	1
合計	23	33	56

○活動日程

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	
11/20 (土)						到着 受付	開校式	昼食・休憩	福島さいえねパーク見学		移動	荷物移動	休憩	夕食	休憩	株式会社リオン・ドール コーポレーション 副社長 安西靖雄 様 講話	調べ学 習の進 め方	入浴	就寝 準備
11/21 (日)	起床	朝の集 いラ ンチ 部屋 清掃	移動	朝食	荷物整理 部屋清掃 部屋点検	移動	株式会社 猪苗代観光船 代表取締役 渡部 英一 様 講話	Heart- Globalキヤ ンパ 旗 り送り	移動	遊覧船 「はくちょう丸」	移動	記念 写真	昼食	開校式					

○研修トピックス

「さいえねパーク見学」

福島市のさいえねパークでふくしま hidro サプライ株式会社より SDGs について、自社の取り組みについて教えていただいた。また、移動式水素ステーション、水素自動車やソーラーパネルを実際に見て、再生可能エネルギーの大切さや価値について学んだ。

「講話：SDGs への取り組み」

株式会社リオン・ドール コーポレーション副社長の安西靖雄様から企業としての SDGs への関わり方について、お話をいただいた。自社の取り組みについて、地域のために何ができるかなど教えていただいた。

「講話：地域活性化の取り組み（猪苗代町）」

株式会社猪苗代観光船・代表取締役の渡部英一様から猪苗代湖や遊覧船に対する想いについて、お話をいただいた。実際に、猪苗代湖遊覧船「はくちょう丸」に乗せていただき、猪苗代湖から磐梯山や街並みを見て充実した時間を過ごすことができた。天候にも恵まれ、心に残る体験・学習ができた。

○成果と課題○

<成果>

- エネルギー循環の仕組みを見学することを通して、次世代エネルギーについて視覚的に理解を深めたり、興味を示し、普段のエネルギーの使い方について考える子の姿が見られた。
- SDGs という難しい話題も、専門家が、自社の取り組みなどを分かりやすくかみくだいて話をしていただき、子ども達にしっかり伝わった。
- 実際に猪苗代湖の遊覧船に乗るということは、とても貴重な体験であった。子ども達からは、「楽しい。」という声だけでなく、「猪苗代湖を守りたい。」という声を聞くことができ、実際に見学させることの大切さを実感した。
- 子どもたちもSDGs というワードは、聞いたことがあるが分からない子が多くいた。福島県内の3つの企業のSDGsの取り組みを聞いて、「実際に身近にできることがある」という声が聞こえた。

<課題>

- 猪苗代町の地域活性化の取り組みの説明は少し内容が難しかったので、事前に、こちらで補足資料を準備する等の対応が必要であった。パワーポイントによる講話での説明は、児童にとって非常に有効であることが分かったので、今後検討していきたい。

「第7期 福島こども未来塾 第6回」

【期 日】 令和3年12月11日(土)～12月12日(日)

【参加者】 小学5年生～中学1年生



○事業趣旨

- OB・OGと共に防災について学習しよう。
- OB・OGと共に応急手当について学習しよう。
- 夢の実現について考えよう。
- 未来塾で体験し、興味をもって調べた内容を発信しよう。

○参加者内訳【塾生】

対 象	男	女	計
小学5年生	9	19	28
小学6年生	9	12	21
中学1年生	5	0	5
合 計	23	31	54

【OB・OG】

対 象	男	女	計
小学生(6年)	1	3	4
中学生	11	8	19
高校生	3	2	5
大学生	2	0	1
合 計	17	13	30

○活動日程

日	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	
12/11(土)						到着受付	開校式	東田講話	昼食	入所オリエンテーション	荷物移動	応急手当	HEG(避難所運営ゲーム)	夕食	休憩	作文指導	OB・OGと語ろう	入浴	就寝準備
12/12(日)	起床準備	朝の準備	朝食	荷物整理	移動	調べ学習ミニ発表会	昼食	写真撮影	開校式										



○研修トピックス

「福士所長による震災講話」

県庁が被災した時の体験談を交えて、自助、共助、公助について学んだ。福島県内は、地震だけでなく、火山、水害、原子力災害などの可能性もある。参加者は、「日ごろからの備えが必要」だということ学んだ。

「災害時の応急手当」

日本赤十字社の方を講師にお招きし、応急手当やHUG(避難所運営ゲーム)を行い、防災について学んだ。HUG(避難所運営ゲーム)の時に、OB・OGの先輩方がリーダーシップを発揮し、塾生の意見を上手に引き出したり、進んで意見を言う場面が多く見られた。OB・OGの積極的に発表する姿を見て刺激を受けていた。

「OB・OGと語る会」

マスクやソーシャルディスタンス等の新型コロナウイルス感染症対策を徹底した中で、OB・OGの方と語りあった。ケーキとジュースを食べながら、自己紹介をしたり、OB・OGが体験した福島こども未来塾に残ったプログラムなどを話題に楽しい雰囲気の中で時間を過ごした。OB・OGの方と絆を深めることができた。

「講話：夢に向かって」

夢に向かって頑張る方として、猪苗代町の地域おこし協力隊の長友氏をお招きしてお話しをしていただいた。講話の後に、「自分がやりたいこと」、「自分の得意なこと」、「こんな大人になりたい」など塾生一人一人が自分を見つめて、将来像を思い浮かべていた。

「調べ学習ミニ発表会」

調べ学習ミニ発表会では、福島こども未来塾で学んだ体験をもとに塾生一人一人が、興味のあることを調べ、まとめたものをOB・OGの前で発表した。発表後、OB・OGの方から、感想や最終発表に向けたアドバイスももらった。

○成果と課題

<成果>

- 新型コロナウイルス感染対策を徹底したなかでの活動だったので、長時間、話し合うことはできなかったが、充実した話し合いとなったので、塾生、OB・OGにとって満足いくものになった。
- 東日本大震災や阪神・淡路大震災の反省から学ぶことで、防災についての理解を深めることができた。アンケートには、「実際の生活に生かしたい」「防災のアイテムなどを準備する」などの感想が多かった。
- 応急手当を学んだり、HUG(避難所運営ゲーム)を体験することで、参加者一人一人が防災に対する意識が高まり、普段から「もしものために備えること」の大切さを実感した。

<課題>

- 講義形式の内容が多かったので、もう少し自然体験も取り入れながら進める等、メリハリをつけたプログラムにしていく必要がある。

「第7期 福島子ども未来塾 第7回」

【期 日】 令和4年1月22日(土)～1月23日(日)

【参加者】 小学5年生～中学1年生



○事業趣旨

- ・ 福島子ども未来塾で学んで、これからの未来について考え、発表しよう。
- ・ 震災、スポーツ、表現、SDGs、防災などを体験し、自分が興味のあること調べてまとめ、発表する。

○参加者内訳

対象	男	女	計
小学5年生	7	15	22
小学6年生	8	14	22
中学1年生	2	0	2
合計	17	29	46

○活動日程

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	
1/22 (土)						到着 受付	開校式	入所オリエンテーション	昼食	活動説明	研修生発表								
1/23 (日)	起床 部屋 清掃	昼の集 い ら ず 移動	移動	荷物整理 部屋清掃 部屋点検	移動	第7期福島子ども未来塾開塾式			移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	

○研修トピックス

「調べ学習・作文レコーディング」

福島子ども未来塾を通して学んだことから自分で調べたいことを見つけ、スケッチブックやパワーポイントなどにまとめ発表した。塾生は、12月のOB・OGのアドバイスを生かし、堂々と発表する姿が見られた。その様子を動画として保存した。

「なみえ水族館」

福島子ども未来塾第3回目に福島の漁業についてお話を聞いた。その後、塾生一人一人が福島の海で捕れる魚の絵を描いた。その時の絵を集めた「なみえ水族館」として塾生に披露された。リモートで浪江町の地域まちおこし隊の庄司さんと結び、説明を受けた。塾生からは、「自分の絵が浪江町の人を元気にさせられていてうれしい」などの声が聞こえた。

「活動報告会・閉塾式」

報告会では代表者がステージで発表を行った。ふるさと福島への思いや自分の将来についての考えを述べるなど、素晴らしい発表が多かった。

来賓、職員とともに福島子ども未来塾を通して成長する塾生の姿が見られた。

○成果と課題

<成果>

- 調べ学習では、パワーポイントとスケッチブックの2通りの方法を用意したことで、それぞれに調べたことをまとめ、発表する等、個に応じた対応ができた。
- 新型コロナウイルス対策を徹底し、活動ごとに部屋と物品を消毒するなど万全にして活動を進めることができた。
- 昨年同様、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、来賓は、オンラインによる閉塾式の参加もできることを事前に伝えた。昨年の経験があり、スムーズに開催できた。
- 発表の仕方をパソコンで収録することに変更したが、一生懸命調べ学習に取り組んだことを自信をもって発表する姿が見られた。

<課題>

- 作文・調べ学習発表などを充実させ、より内容の深い閉塾式を作り上げたい。

5 会津・山形「体験の風をおこそう」運動実行委員会事業

(1) 第5回いなわしろフェスティバル 春（詳細は、P29参照）

※ 2月6日(日)に、「冬」を予定していたが、「まん延防止等重点措置」が発令されたため中止となった。

(2) 会津・山形「体験の風をおこそう」運動推進事業

① 事業目的

「体験の風をおこそう」運動の普及啓発のために、山形県内及び福島県内の多くの子供たちに体験活動の楽しさを提供するとともに、保護者に体験活動の必要性や重要性を発信する。

② 実施事業「あらうんどキャンプ」

(詳細は、P26参照)

会津自然の家、山形県飯豊少年自然の家、国立磐梯青少年交流の家が連携し、2泊3日で各施設を訪れ、それぞれの施設のプログラムを体験する事業。今年度初めて実施した。同じ雪国でも様々な体験活動があることを参加者は実感し、有意義な3日間を過ごすことができた。

※ 他にも令和4年1月30日(日)にイオンモール天童への出展に向けて計画・準備を進めてきたが、1月27日(木)から福島県に「まん延防止等重点措置」が発令されたため、中止した。



(3) 子どもの生活リズム向上山形県フォーラム

① 内容

・記念講演「Society5.0 デジタル社会の中で生きていく子どもたち」

精神保健福祉士 増田 貴久 氏

② 期日 場所

・11月13日(土) 山形市「遊学館ホール」

※山形県では、他にも「庄内地区スキルアップ講座」等、ボランティアの育成に係る事業も実施した。



山形県フォーラムちらし

(4) 地域イベントや他施設での「体験の風をおこそう」運動普及啓発活動

① 事業目的

「体験の風をおこそう」運動の普及啓発のために、地域のイベントに積極的に出展を行い、体験活動の重要性について広く発信をしていく。



② 期日イベント名【場所, 人数】

- 5月23日（日）
磐梯山開き 【猪苗代登山口 117人】
- 6月27日（日）
猪苗代マラソン大会 【猪苗代町運動公園 396人】
- 10月16日（土）
猪苗代ノルディックウォーク 【リステル猪苗代 218人】
- 11月6日（土）・7日（日） いなわしろ新そば祭り 【道の駅いなわしろ 1,088人】
- 1月10日（月） 十日市 【会津若松市野口青春通り 1,350人】
- 1月13日（木） 十三日市 【猪苗代町中央商店街通り 322人】

③ 成果

昨年度同様イベント中止が続く中で、上記のように開催できたものもあったため、可能な限り体験の普及啓発活動を実施した。コロナ禍でも地域が一体となって子供たちや保護者、地域の方々に体験の機会を提供したことにより、体験活動の楽しさや必要性・重要性を実感していただいたことは、地域力向上につながると改めて実感した。

(5) 地域の学童クラブ等への出前講座

① 内容

学童クラブ等への出前事業として、昔遊び、缶バッジ作製体験、こども体験遊びリンピックの体験プログラム、レクリエーションの提供

② 期日, 会場, 参加人数

5月26日（水）	猪苗代児童クラブ	153人
6月14日（月）	緑児童クラブ	25人
6月16日（水）	東山児童クラブ	247人
7月21日（水）	翁島児童クラブ	74人
8月18日（水）	川南こどもクラブ	32人
9月27日（月）	猪苗代町放課後こども教室（翁島小）	23人
10月11日（月）	城西こどもクラブ	213人
10月26日（火）	猪苗代町放課後こども教室（緑小）	23人
10月28日（木）	猪苗代町放課後こども教室（長瀬小）	91人
12月8日（水）	千里児童クラブ	30人

③ 成果

子供たちが大いに楽しむことができる体験活動の提供を行い、興味をもってもらえたこと及び実行委員会と体験活動の周知に効果があった。

(6) 「早寝早起き朝ごはん」国民運動普及啓発キャラバン

① 事業目的

子供の基本的な生活習慣の確立や生活リズムの向上につながる「早寝早起き朝ごはん」国民運動を積極的に展開することにより、子供たちの「よく体をうごかし、よく食べ、よく眠る」という当たり前で必要不可欠な生活習慣を家庭や子供、社会全体に普及啓発をしていく。

② 期日、会場、参加人数

6月7日（月）	堂島こども園	48人
6月12日（土）	裏磐梯幼稚園・小学校・中学校	357人
9月6日（月）	さくら幼稚園	40人
11月2日（火）	喜多方第二こども園	73人
11月4日（木）	喜多方第三こども園	79人
11月8日（月）	若松聖愛幼稚園	35人
12月3日（金）	山都こども園	51人
12月7日（火）	姥堂こども園	54人
12月8日（水）	高郷こども園	45人
12月15日（水）	若松第二保育園	91人
12月17日（金）	南町こども園	51人
12月22日（水）	菅原若葉こども園	100人

③ 成果

会津若松市、喜多方市、磐梯町、猪苗代町、北塩原村の幼稚園やこども園、保育園に年度初めに募集案内を配付したところ、上記12か所で「早寝早起き朝ごはん」国民運動を実施できた。今年度もコロナ禍のため、絵本「よふかしおにとはやねちゃん」の読み聞かせ、早寝早起き朝ごはん体操と限られた活動の提供となった。そのような状況下でも、参加した子供たちや保護者、職員の方々に「早寝早起き朝ごはん」の大切さを普及啓発することができた。キャラバン当日まで園児に体操を覚えさせたいと、実施前に「早寝早起き朝ごはん体操を覚えたい」と当交流の家に来所された先生もいらしかったことから、普及啓発活動の効果は確実に表れていることが分かった。



(7) 子どもゆめ基金説明会

① 事業目的

より多くの方々や青少年団体などに、子どもゆめ基金の趣旨を理解していただくとともに、申請の流れや申請書の書き方などの実務について、知識を深めていただく。

② 期日・場所

- 10月30日（土）北茨城市生涯学習
- 10月31日（日）いわき市文化センター
- 11月6日（土）吾妻学習センター
- 11月13日（土）山形市「遊学館ホール」

※山形県フォーラムにおいて



(8) その他

① 猪苗代湖の自然を守る会との連携

○地元小学校の総合学習支援

- 6月11日（金） 翁島小学校「湖面の植物についての講話」
- 6月29日（火） 翁島小学校「川の水質調査1」四ヶ村堀・高橋川
- 7月16日（金） 翁島小学校「川の水質調査2」硫黄川・高森川
- 9月13日（月） 翁島小学校「アサザの移植」
- 9月14日（火） 翁島小学校「ヒシ回収活動」
- 9月28日（火） 翁島小学校「アサザ種取り」
- 10月1日（金） 翁島小学校「湖岸のヨシ刈り」
- 10月8日（金） 翁島小学校「湖岸のヨシ刈り」



ヒシ回収活動
(R3.9.14)

○ヒシ刈ボランティアとしての協力【計7回】

- 7月23日（金）・30日（金），8月20日（金）・27日（金），
- 9月3日（金）・10日（金）・17日（金）

② 「体験の風をおこそう」スタンプラリー

国立磐梯青少年交流の家，国立磐梯那須甲子青少年自然の家，福島県会津自然の家，福島県郡山自然の家，いわき海浜自然の家の利用について継続的に利用している方に記念品を贈呈し，「体験の風をおこそう」運動の啓発を図ってきた。

③ 「体験の風をおこそう」カレンダー

国立磐梯青少年交流の家を中心に，会津・山形「体験の風をおこそう」運動実行委員会の構成団体で，「体験の風をおこそうカレンダー2022」を4月～3月として作成した。カレンダーの内容は，各団体や施設の特徴を紹介した内容にし，各構成団体を通して幅広く配布し，「体験の風をおこそう」運動の普及啓発を図る。